

平成27年度

東京海洋大学 修学支援調査

集計結果報告書

平成27年6月調査実施

国立大学法人 東京海洋大学

ま え が き

東京海洋大学修学支援調査は、アンケートにより本学学生の勉学・研究、生活、居住環境、課外活動などの実態を把握し、どこにどのような問題、課題があるかを明らかにして、生き生きとした学生生活を送れるように、修学支援、教育改善等に対し適切な取り組みを構築する上での重要な情報を収集することを目的としています。体系的に調査データを蓄積し、分析することにより、学生や大学が抱える問題を明らかにし大学側の対応策を考えることが可能になります。

多くの学生諸君の協力で、学生生活の様々な場面での実態や現状を把握する上での示唆的なデータを得ることができました。また、自由記述形式での回答から本学に対する要望や意見を具体的に知ることができました。

この報告書では、個人情報取り扱いに配慮し、調査結果をグラフ形式での整理、質問項目ごとの分析結果を示しています。学生ひとりひとりが充実したキャンパスライフを実感できるように、この調査報告を役立てていただければと願っております。

今回の調査実施にあたり、調査を担当された学生支援委員会学生生活実態調査小員会の委員ならびに学務部の事務担当者、ご協力をいただいた先生方、調査の趣旨を理解して回答に協力してくれた学生諸君など、関係者のご協力とご尽力に心から感謝いたします。

平成28年1月

学生支援委員会委員長

稲石 正明

目 次

ま え が き

I 基本的事項について

1 所属学科・専攻	1
2 学年	1
3 性別	1
4 入学年度	2
5 外国人留学生であるか	2

II. 入学について

1 東京海洋大学入学をどの程度希望していたか	3
2 合格した選抜方法	3
3 東京海洋大学入学の動機	4

III. 修学関係について

1 大学の教育に満足しているか	4
1-SQ 大学の教育に不満な理由	5
2 大学の研究指導に満足しているか	5
2-SQ 大学の研究指導に不満な理由	5
3 週の授業数(コマ数)	6
4 現在の取得単位 / 全体	6
4 現在の取得単位 / 学部2年	7
4 現在の取得単位 / 学部3年	7
4 現在の取得単位 / 学部4年	8
4 現在の取得単位 / 博士前期2年	8
4 現在の取得単位 / 博士後期2年	8
4 現在の取得単位 / 博士後期3年	9
5 授業への出席頻度	9
6 授業に欠席する理由	9
7 1日の平均時間/授業の予復習	10
8 1日の平均時間/課題やレポート作成	10
9 1日の平均時間/大学の授業と無関係の学習	11
10 授業内容が理解できなかった場合の対処	11

IV. 学生生活について

1 週の平均登校日数	11
2 大学の窓口対応について	12
3 大学での友人関係	12
4 自分の生活リズムについて	12
5 現在の大学生活で最も大切にしているもの	13
6 携帯・スマホ・PCのメールやインターネット使用時間(1日平均)	13
7 携帯・スマホ・PCの1番の利用目的	13

V. 通学・居住について

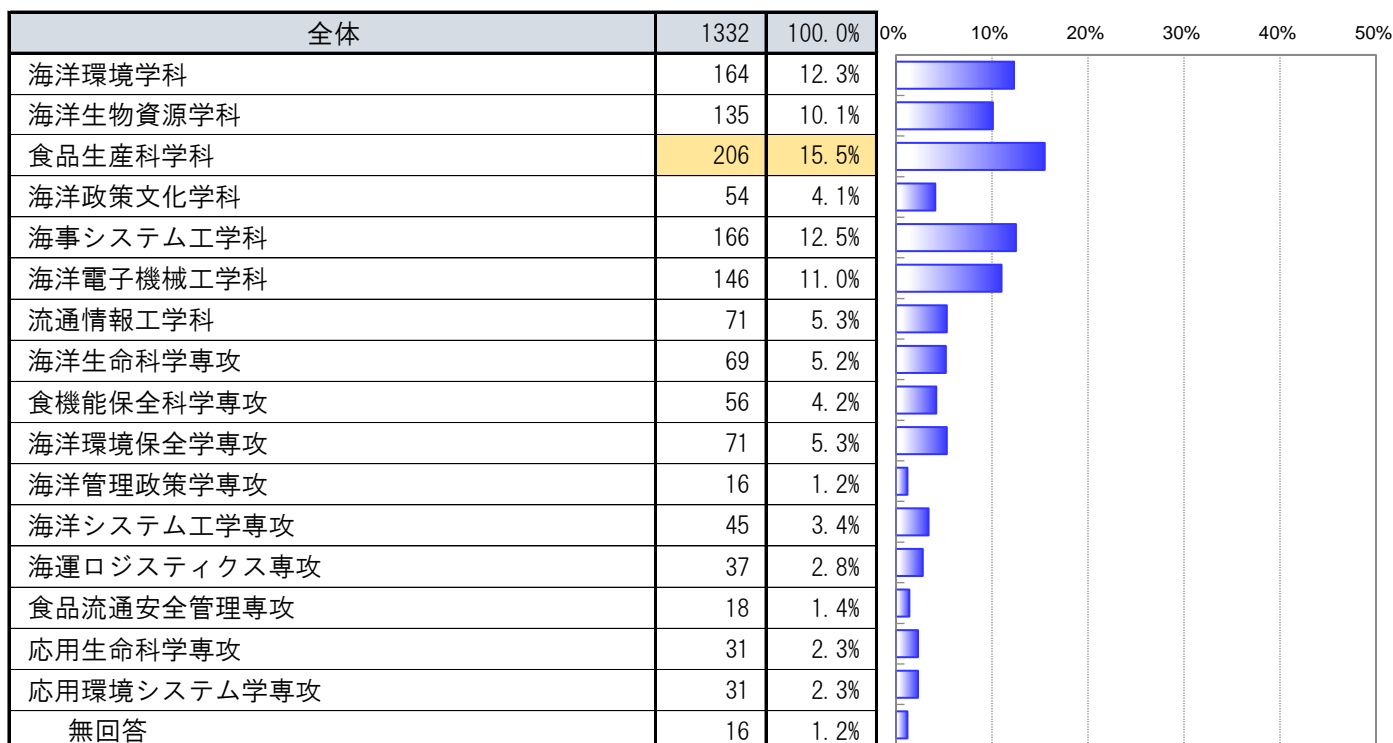
1 通学に利用している交通機関	14
2 片道の通学時間	14
3 現在の住居の区分	14
4 家族と連絡をとる頻度	15
5 住居の住み心地	15

6	住居について不満に感じている点	15
7	学生寮についてどう思うか	16
8	どの位の通学時間なら入寮したいか	16
9	学生寮の料金（共益費・光熱水料含む）がいくら位なら入寮したいか	16
VI. アルバイトについて		
1	過去1年間にアルバイトをしたか	17
2	アルバイトの種類	17
3	1週間のアルバイト従事時間	17
4	どこでアルバイトの紹介を受けたか	18
VII. 健康・悩みなどについて		
1	健康状況について	18
2	健康のために心がけていること	19
3	現在抱えている悩みや不安	19
4	悩みや不安が生じたときの相談相手	19
5	保健管理センターでの健康相談／認識とその利用	20
6	学生相談室での学生生活相談／認識とその利用	20
7	「学生意見箱」／認識とその利用	20
8	「なんでも相談窓口」／認識とその利用	21
9	大学での義務以外の保険に加入しているか	21
VIII. 大学の経済支援について		
1	「授業料免除」の申請	21
2	「東京海洋大学経済支援給付制度」の申請	21
3	「東京海洋大学経済支援給付制度」の要否・是非	22
4	「東京海洋大学学業優秀学生奨学金」の要否・是非	22
5	日本学生支援機構または他の団体からの奨学金を受けているか	22
6	どこの奨学金を受けているか	22
7	奨学金の月額はいくらか	23
IX. 課外活動について		
1	どのような課外活動団体に所属しているか	23
2	サークル加入の理由・動機	23
3	1週間あたりの活動時間	24
4	課外活動団体に加入していない理由	24
X. 進路・就職について		
1	卒業後希望する進路	24
2	将来就職を希望する業種	25
3	就職先を選ぶ場合に重視すること	26
4	希望する進路をかなえるためにしていること	26
5	就職相談窓口の利用とその内容	27
6	大学外で資格取得のために通学したことがあるか	27
XI. 大学への要望について		
1	大学に対する要望や意見	27
2	大学の教員に対して望むこと	28
3	大学の授業に対する要望や意見	28

I. 基本的事項について

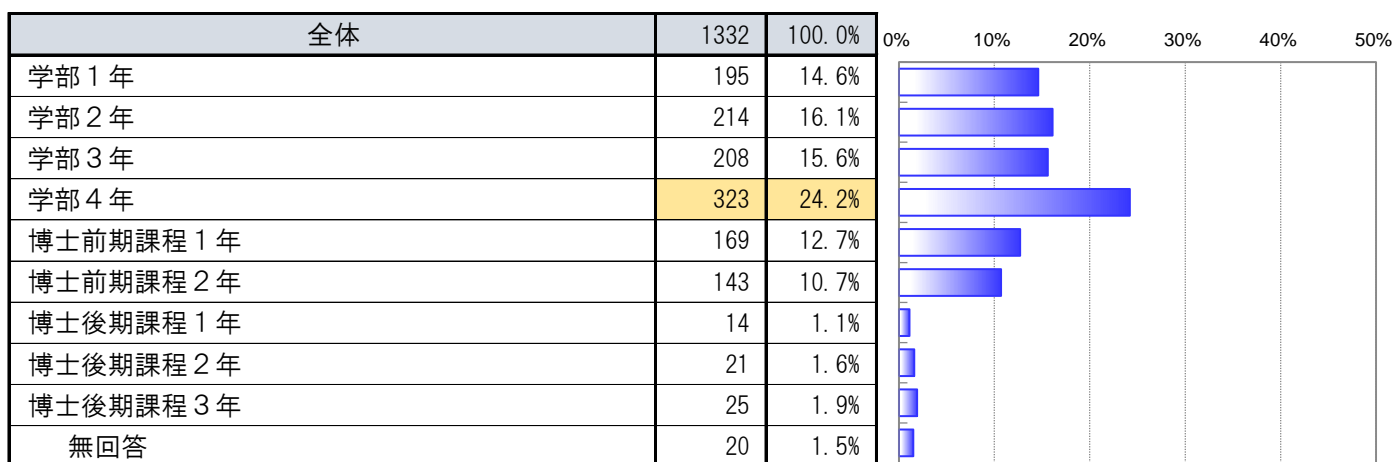
1 所属学科・専攻

全体では、「食品生産科学科」206件（15.5%）、「海事システム工学科」166件（12.5%）、「海洋環境学科」164件（12.3%）の順となっている。



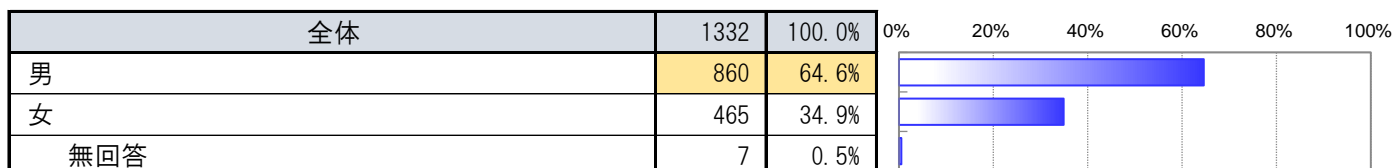
2 学年

全体では、「学部4年」が323件（24.2%）、「学部2年」が214件（16.1%）、「学部3年」が208件（15.6%）の順となっている。



3 性別

全体では、「男」が860件（64.6%）、「女」が465件（34.9%）となっている。



4 入学年度

全体では、「平成26年度」374件（28.1%）、「平成27年度」355件（26.7%）、「平成24年度」307件（23.0%）の順となっている。

入学年度	件数	割合
全体	1332	100.0%
平成27年度	355	26.7%
平成26年度	374	28.1%
平成25年度	235	17.6%
平成24年度	307	23.0%
平成23年度以前	44	3.3%
無回答	17	1.3%

5 外国人留学生であるか

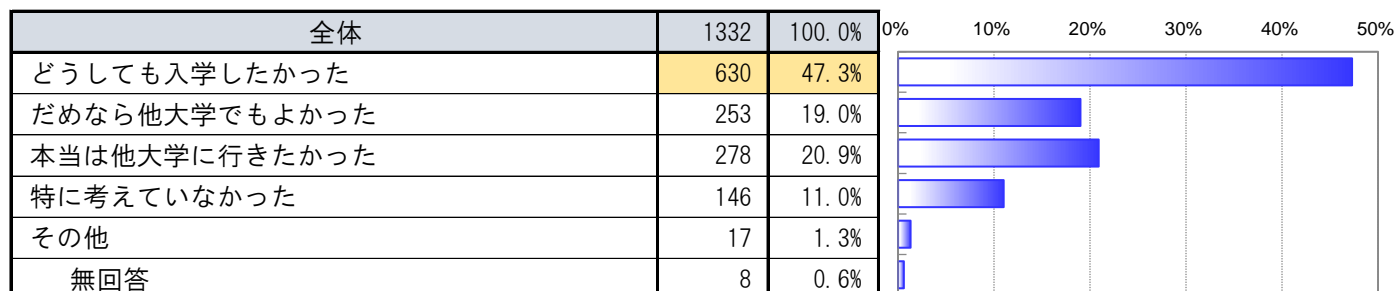
全体では、「外国人留学生ではない」が1174件（88.1%）、「外国人留学生である」が96件（7.2%）となっている。

外国人留学生であるか	件数	割合
外国人留学生である	96	7.2%
外国人留学生ではない	1174	88.1%
無回答	62	4.7%

Ⅱ. 入学について

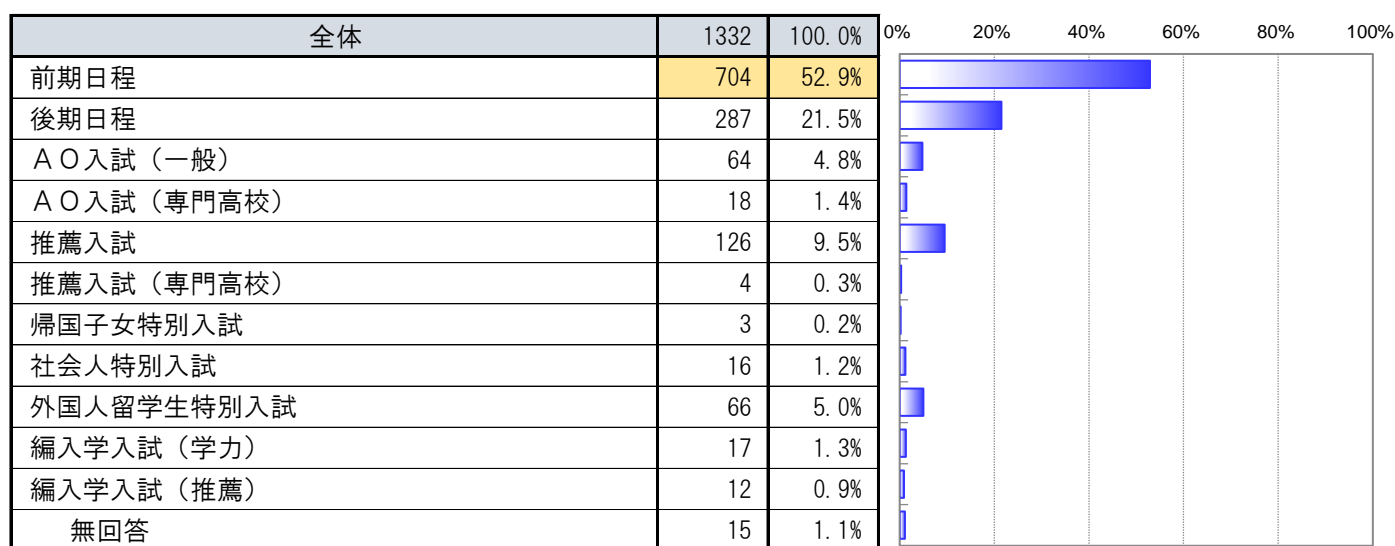
1 東京海洋大学入学をどの程度希望していたか

東京海洋大学入学をどの程度希望していたかについては、「どうしても入学したかった」がほぼ半数の630件(47.3%)を占めた。「だめなら他の大学でもよかった」の253件(19.0%)を合わせた第一志望として入学した学生の割合は883件(66.3%)である。「本当は他の大学」に行きたかった、「特に考えていなかった」を合わせた第一志望ではなかった学生の割合は424件(31.9%)であった。Ⅱ-3の「自分の志望した研究分野があったから」と「どうしても入学したかった」の解答の多さを合わせて考えると、海洋大学で行われている研究、教育内容に憧れて入学してくる学生が非常に多いことが分かる。目的の具体例として海技士免許(航海・機関)の取得、日中韓プログラムへの参加等があった。



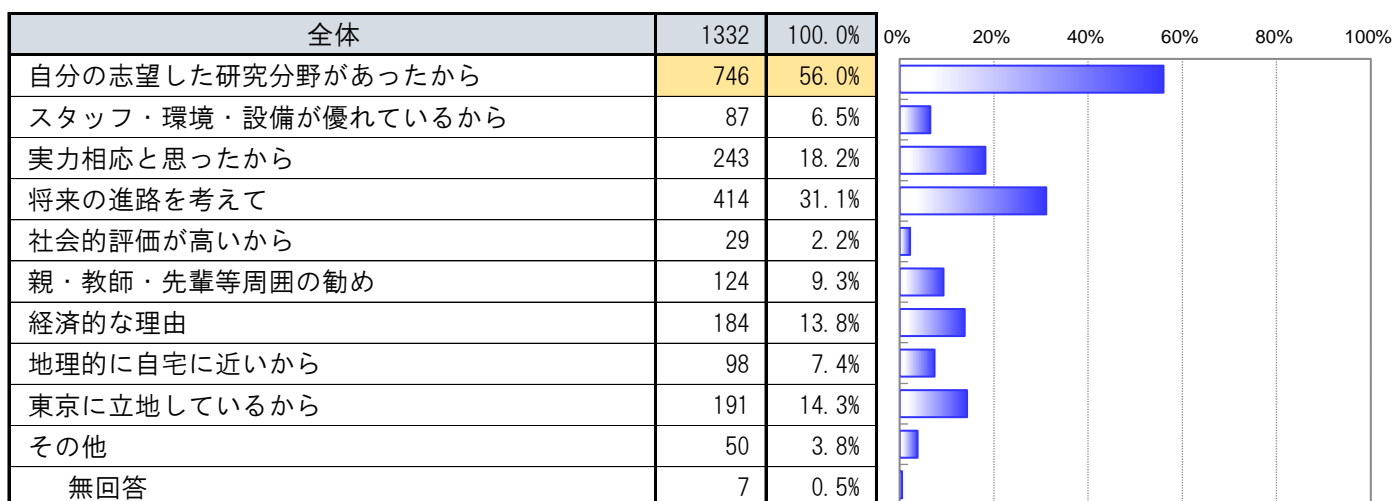
2 合格した選抜方法

合格した選抜方法には11種の多様な試験方法が解答に上げられた。一般入試前期日程704件(52.9%)、後期日程287件(21.5%)、を合わせると991件(74.4%)となり、ついで推薦入試126件(9.5%)、外国人留学生特別入試66件(5.0%)、AO入試(一般)64件(4.8%)の順で多かった。専門高校卒での入学はAOと推薦あわせて22件(1.7%)であり、帰国子女特別入試、社会人特別入試、編入学入試での入学者も少数回答があった。



3 東京海洋大学入学の動機 [2つまで回答可]

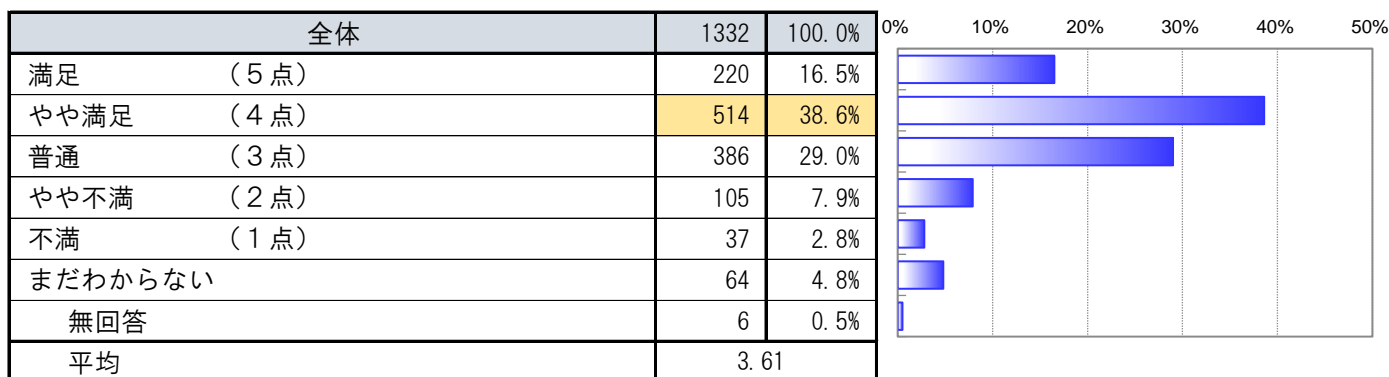
東京海洋大学入学の動機については「自分の志望した研究分野があった」746件(56.0%)、「将来の進路を考えて」414件(31.1%)の東京海洋大学での自分の成長を期待する回答が多く見られた。具体例は、海が好き、魚の勉強がしたい、就職率が高い、航海士、機関士になるなどであった。ついで「実力相応と思ったから」243件(18.2%)、そして「地理的に自宅に近いから」98件(7.4%)、「経済的な理由」184件(13.8%)などの各自の経済的事項に関するものであるという回答が続いた。



Ⅲ. 修学関係について

1 大学の教育に満足しているか

大学の教育に満足しているかという問いに対しての回答では「やや満足」514件(38.6%)、「満足」220件(16.5%)で、これらを合計した満足している学生は734件(55.1%)であった。ついで「普通」という回答が多く386件(29.0%)であった。不満を持つという回答は「やや不満」105件(7.9%)、「不満」37件(2.8%)を合計して142件(10.7%)であった。



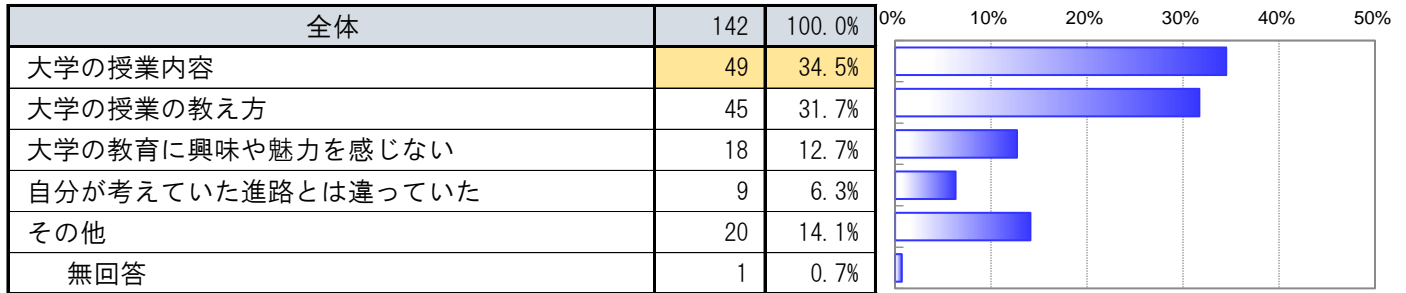
※平均値の算出においては、「まだわからない」を除外している。

1-SQ 大学の教育に不満な理由

【回答条件】Ⅲ-1 大学の教育に満足しているか…不満、やや不満

全体では、「大学の授業内容」49件(34.5%)、「大学の授業の教え方」45件(31.7%)、「大学の教育に興味や魅力を感じない」18件(12.7%)の順となっている。

また、「その他」が20件(14.1%)となっている。

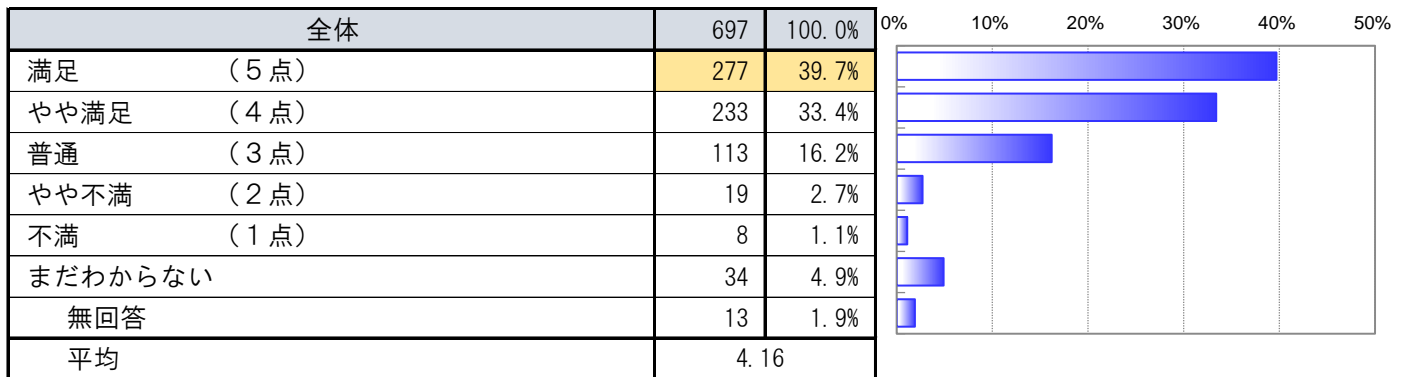


2 大学の研究指導に満足しているか

【回答条件】Ⅰ-1 所属学科・専攻 / Ⅰ-2 学年…学部4年生または大学院生

大学の研究指導に満足しているかとの質問に対する回答では、「満足」277件(39.7%)、「やや満足」233件(33.4%)の合計は510件(73.1%)であった。

不満を感じている学生は「やや不満」19件(2.7%)、「不満」8件(1.1%)で合計27件(3.8%)であった。



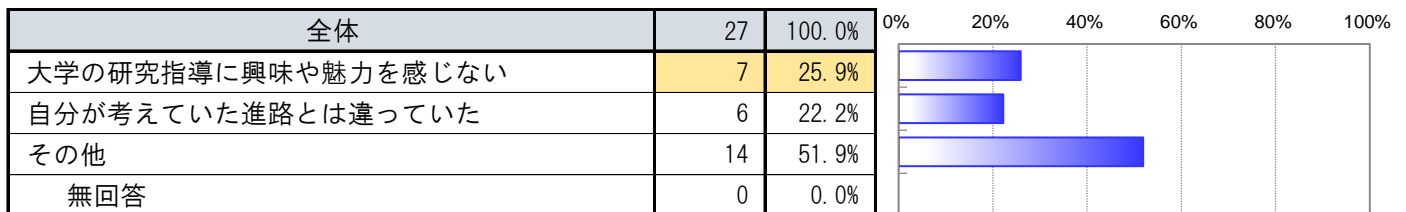
※平均値の算出においては、「まだわからない」を除外している。

2-SQ 大学の研究指導に不満な理由

【回答条件】Ⅰ-1 所属学科・専攻 / Ⅰ-2 学年…学部4年生または大学院生

Ⅲ-2 大学の研究指導に満足しているか…不満、やや不満

不満な理由は「大学の研究指導に興味や魅力を感じない」7件(25.9%)、「自分が考えていた進路とは違っていた」6件(22.2%)であり、最も多かった解答は「その他」14件(51.9%)であった。



3 週の授業数（コマ数）

週の授業数に関しては、ばらつきが大きい。最も多い「0コマ」286件（21.5%）は学部4年、博士前期課程2年で8割を超えていた。また、「1～2コマ」195件（14.6%）は学部4年生と博士前期課程1年で8割を超える結果となった。ついで「16～20コマ」189件（14.2%）が多く、「21コマ」以上の回答は13件（1.0%）であった。

全体	1332	100.0%
0コマ	286	21.5%
1または2コマ	195	14.6%
3～5コマ	136	10.2%
6～10コマ	110	8.3%
11～15コマ	275	20.6%
16～20コマ	189	14.2%
21コマ以上	13	1.0%
無回答	128	9.6%
平均	7.4	
最小値	0	
最大値	31	

4 現在の取得単位 / 全体

【回答条件】I-2 学年…2年生以上

全体では、「41～60単位」184件（19.5%）、「101～120単位」154件（16.3%）、「121～140単位」152件（16.1%）の順となっている。

現在の取得単位は学部2年では「41～50単位」41.4%、「51～60単位」52.9%を合わせると9割を超えた。学部3年では「91～100単位」43.3%が最も多かった。学部4年では「111～120単位」31.5%、「121～130単位」38.0%と合わせて7割弱であった。最小値は78単位、最大値は180単位であった。学部では学年が上がるにつれ取得単位数のばらつきが大きくなっていく傾向が見られた。博士前期課程2年生では7割弱が「16～20単位」と回答し、その他は各項目10%以下であった。博士後期課程2年生は「4単位」53.3%がもっとも多い回答であった。最小値は2単位、最大は8単位であった。博士後期3年でも「4単位」55.6%が最も多かった。最大単位数は10単位で11.1%であった。

全体	945	100.0%
0～20単位	143	15.1%
21～40単位	28	3.0%
41～60単位	184	19.5%
61～80単位	25	2.6%
81～100単位	118	12.5%
101～120単位	154	16.3%
121～140単位	152	16.1%
141単位以上	40	4.2%
無回答	101	10.7%
平均	81.4	
最小値	2	
最大値	180	

※ 以下の各区分では、Ⅲ-4(全体) 有効回答を全件数としている。

4 現在の取得単位 / 学部2年

【回答条件】 I-1 所属学科または専攻 / I-2 学年…学部2年生

学部2年生では、「51～60単位」101件（52.9%）、「41～50単位」79件（41.4%）、「40単位以下」6件（3.1%）の順となっている。

全体	191	100.0%
40単位以下	6	3.1%
41～50単位	79	41.4%
51～60単位	101	52.9%
61～70単位	3	1.6%
71～80単位	1	0.5%
81単位以上	1	0.5%
無回答	0	0.0%
平均	52.0	
最小値	7	
最大値	90	

4 現在の取得単位 / 学部3年

【回答条件】 I-1 所属学科または専攻 / I-2 学年…学部3年生

学部3年生では、「91～100単位」81件（43.3%）、「101～110単位」33件（17.6%）、「81～90単位」30件（16.0%）の順となっている。

全体	187	100.0%
60単位以下	3	1.6%
61～70単位	3	1.6%
71～80単位	16	8.6%
81～90単位	30	16.0%
91～100単位	81	43.3%
101～110単位	33	17.6%
111単位以上	21	11.2%
無回答	0	0.0%
平均	97.2	
最小値	10	
最大値	150	

4 現在の取得単位 / 学部4年

【回答条件】 I-1 所属学科または専攻 / I-2 学年…学部4年生

学部4年生では、「121～130単位」112件（38.0%）、「111～120単位」93件（31.5%）、「131～140単位」33件（11.2%）の順となっている。

全体	295	100.0%
100単位以下	5	1.7%
101～110単位	15	5.1%
111～120単位	93	31.5%
121～130単位	112	38.0%
131～140単位	33	11.2%
141～150単位	21	7.1%
151単位以上	16	5.4%
無回答	0	0.0%
平均	126.5	
最小値	78	
最大値	180	

4 現在の取得単位 / 博士前期2年

【回答条件】 I-1 所属学科または専攻 / I-2 学年…博士前期2年生

博士前期2年生では、「16～20単位」88件（68.8%）、「11～15単位」と「21～25単位」が同数にて12件（9.4%）の順となっている。

全体	128	100.0%
10単位以下	4	3.1%
11～15単位	12	9.4%
16～20単位	88	68.8%
21～25単位	12	9.4%
26～30単位	8	6.3%
31単位以上	4	3.1%
無回答	0	0.0%
平均	18.9	
最小値	8	
最大値	37	

4 現在の取得単位 / 博士後期2年

【回答条件】 I-1 所属学科または専攻 / I-2 学年…博士後期2年生

博士後期2年生では、「4単位」8件（53.3%）、「5単位」と「6単位」が同数で2件（13.3%）の順となっている。

全体	15	100.0%
2単位	1	6.7%
3単位	1	6.7%
4単位	8	53.3%
5単位	2	13.3%
6単位	2	13.3%
8単位	1	6.7%
無回答	0	0.0%
平均	4.5	
最小値	2	
最大値	8	

4 現在の取得単位 / 博士後期3年

【回答条件】 I-1 所属学科または専攻 / I-2 学年…博士後期3年生

博士後期3年生では、「4単位」10件（55.6%）、「5単位」4件（22.2%）、「6単位」と「10単位」がともに2件（11.1%）の順となっている。

全体	18	100.0%
4単位	10	55.6%
5単位	4	22.2%
6単位	2	11.1%
10単位	2	11.1%
無回答	0	0.0%
平均	5.1	
最小値	4	
最大値	10	

5 授業への出席頻度

授業への出席頻度については「どの授業にもほとんど出席している」952件（71.5%）に続き「一部を除いて大部分の授業に出席している」266件（20.0%）であり、出席率が非常に高いことが分かる。その一方で、「一部を除いて大部分の授業に出席していない」5件（0.4%）、「どの授業にもほとんど出席していない」18件（1.4%）との回答も23名いた。

全体	1332	100.0%
どの授業にもほとんど出席している	952	71.5%
一部を除いて大部分の授業に出席している	266	20.0%
どの授業にも出たり出なかつたりしている	59	4.4%
一部を除いて大部分の授業に出席していない	5	0.4%
どの授業にもほとんど出席していない	18	1.4%
無回答	32	2.4%

6 授業に欠席する理由 [2つまで回答可]

【回答条件】 III-5 授業への出席頻度…出たり出なかつたりである、一部を除き欠席、ほとんど欠席

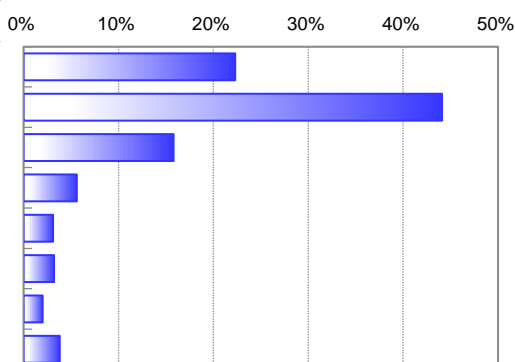
授業に欠席する理由は「必要な単位をほぼ取得したため」21件（25.6%）および「授業に魅力がない」21件（25.6%）という回答で半数を超えた。「授業が理解できない」との回答も3件（3.7%）あった。

全体	82	100.0%
必要な単位をほとんど取得したため	21	25.6%
勉強をあまりしようと思わない	9	11.0%
授業に魅力がない	21	25.6%
授業が理解できない	3	3.7%
健康上の理由	13	15.9%
課外活動のため	9	11.0%
経済的な理由のため	2	2.4%
ただなんとなく	14	17.1%
その他	15	18.3%
無回答	1	1.2%

7 1日の平均時間／授業の予復習

授業の予復習に費やす1日の平均時間については、「1時間未満」297件（22.3%）、「1～2時間未満」588件（44.1%）と2時間未満が6割を超えた。

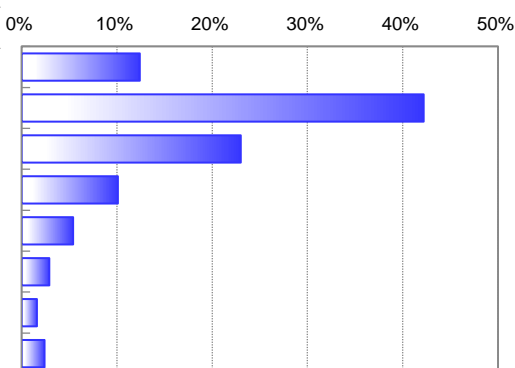
全体	1332	100.0%
1時間未満	297	22.3%
1～2時間未満	588	44.1%
2～3時間未満	211	15.8%
3～4時間未満	75	5.6%
4～6時間未満	41	3.1%
6～10時間未満	42	3.2%
10時間以上	27	2.0%
無回答	51	3.8%
平均	1.6	
最小値	0	
最大値	15	



8 1日の平均時間／課題やレポート作成

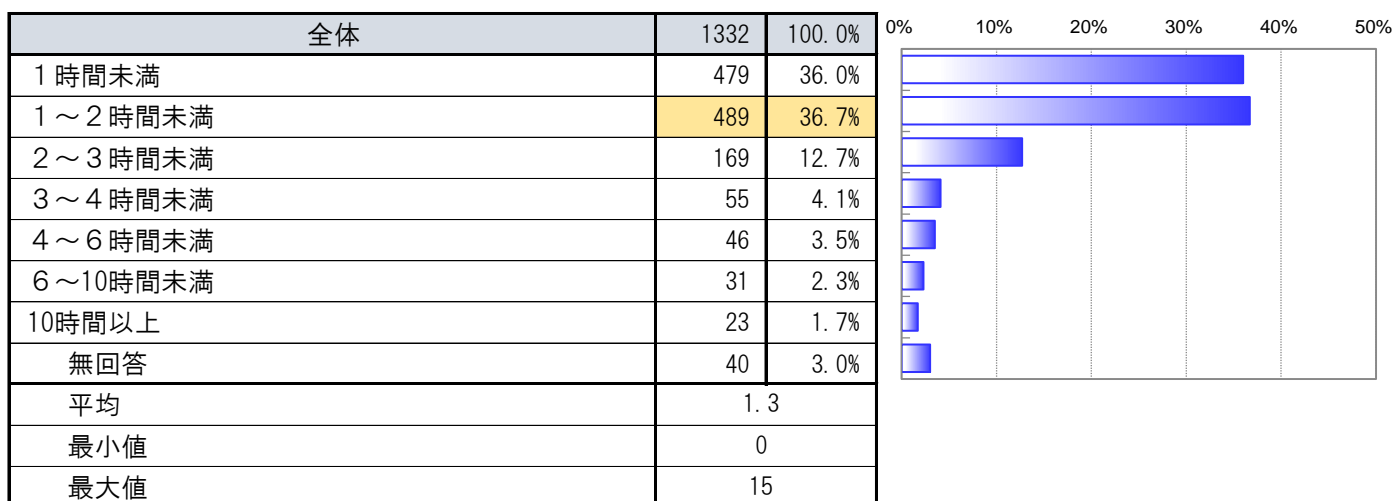
課題やレポート作成に費やす1日の平均時間については、「1～2時間未満」562件（42.2%）「2～3時間未満」307件（23.0%）が6割を超えた。

全体	1332	100.0%
1時間未満	165	12.4%
1～2時間未満	562	42.2%
2～3時間未満	307	23.0%
3～4時間未満	135	10.1%
4～6時間未満	72	5.4%
6～10時間未満	38	2.9%
10時間以上	21	1.6%
無回答	32	2.4%
平均	1.8	
最小値	0	
最大値	15	



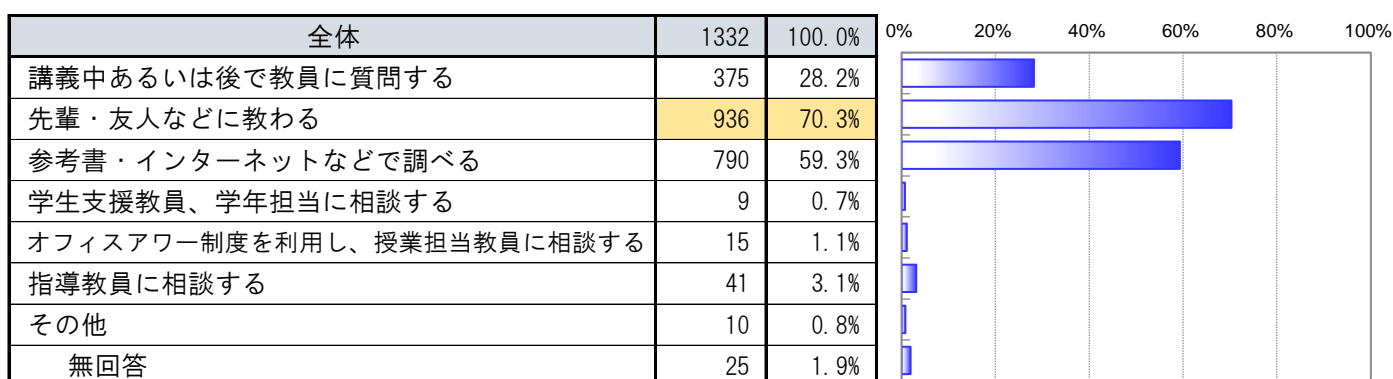
9 1日の平均時間／大学の授業と無関係の学習

大学の授業と無関係の学習に費やす1日の平均時間については、「1時間未満」479件（36.0%）、「1～2時間未満」489件（36.7%）と2時間未満が7割を超えた。Ⅲの7～9の時間を合計すると3～6時間自宅で学習していることになる。



10 授業内容が理解できなかった場合の対処 [2つまで回答可]

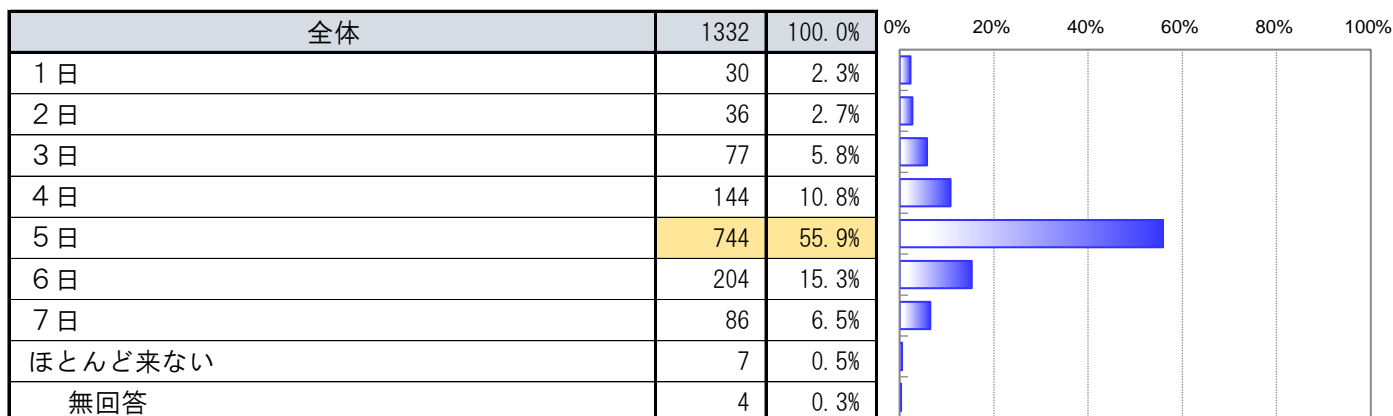
授業内容が理解できなかった場合の対処については「先輩、友人などに教わる」936件（70.3%）が一番多かった。ついで「参考書、インターネットで調べる」790件（59.3%）が多かった。「講義中あるいは後で教員に質問する」も375件（28.2%）あり、何らかの方法で解決している状況がうかがわれた。



IV. 学生生活について

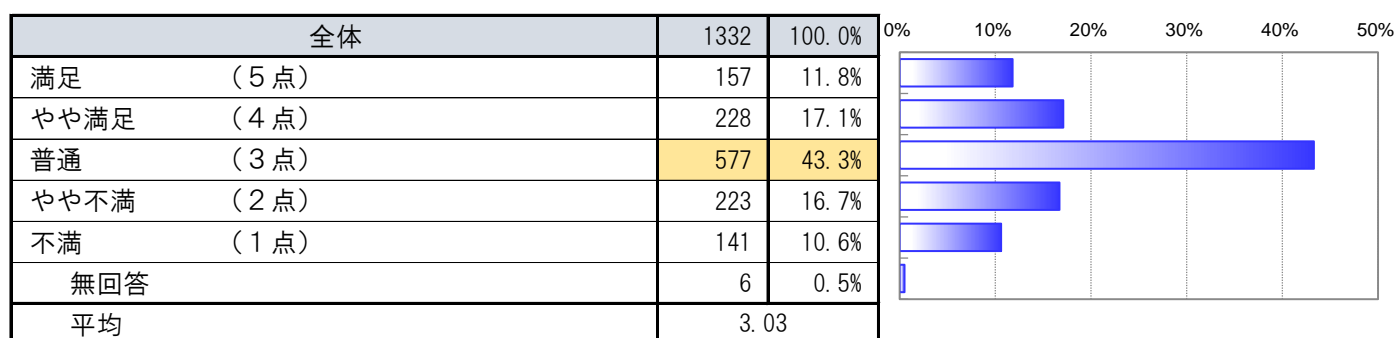
1 週の平均登校日数

全体では「5日」が744件と全体のおよそ半数（55.9%）を占め、次に「6日」204件（15.3%）、「4日」144件（10.8%）の順になっている。一方で0日～3日と回答したものは11.3%であり、概ね4日以上は登校している様子がうかがえる。また、およそ20%が土日を含めた6日、7日登校していると回答した。



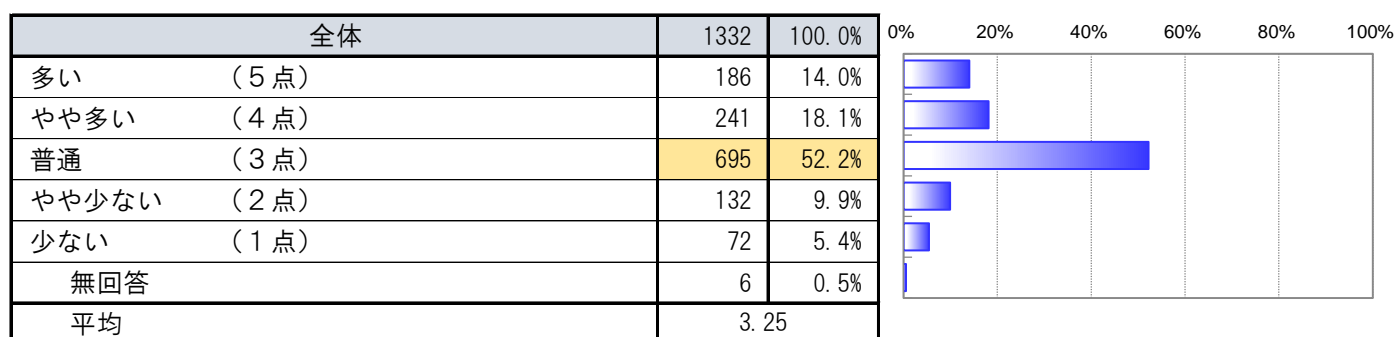
2 大学の窓口対応について

全体では、「普通」が577件と全体の43.3%となり、「やや満足」228件（17.1%）、「やや不満」（16.7%）の順となっている。「満足」および「やや満足」の合計28.9%と「不満」および「やや不満」の合計を27.3%とほぼ同レベルとなっている。



3 大学での友人関係

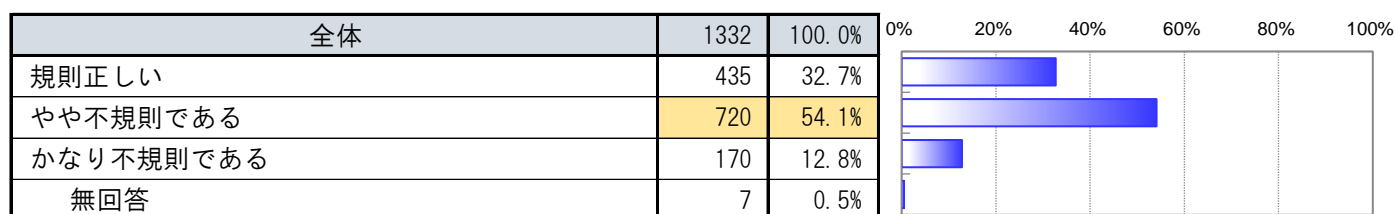
全体では、「普通」と回答したものが695件で、全体の52.2%となっている。次に「やや多い」241件（18.1%）、「多い」186件（14.0%）の順となっている。「やや少ない」および「少ない」と回答したものの合計は15%強となっており、平均値が3.25であることから、大学での友人関係は概ね良好なものを築けていることが見受けられる。



4 自分の生活リズムについて

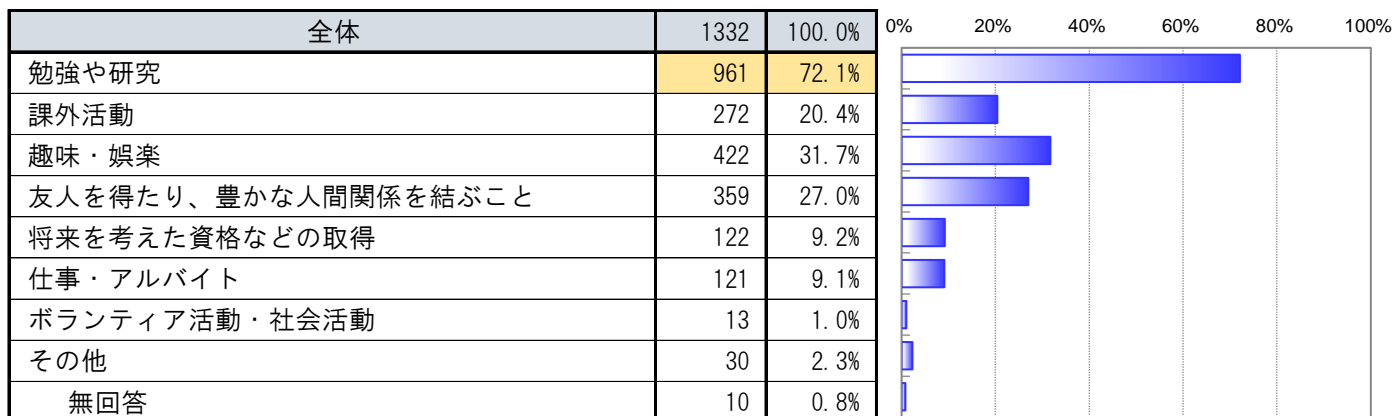
全体では、「やや不規則である」が720件で全体の54.1%を占めている。次に「規則正しい」435件（32.7%）、「かなり不規則である」170件（12.8%）の順となっている。

「やや不規則である」「かなり不規則である」を合計すると66.9%となっており、かなりの割合の学生が不規則な生活を送っていることが分かる。



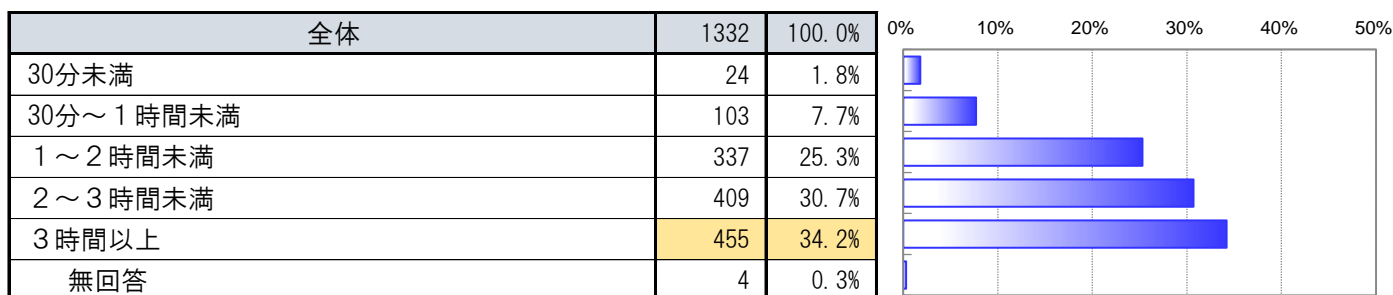
5 現在の大学生活で最も大切にしているもの [2つまで回答可]

全体では、「勉強や研究」と回答したものが最も多く、961件で全体の72.1%となっている。また、「趣味・娯楽」422件(31.7%)、「友人を得たり、豊かな人間関係を結ぶこと」359件(27.0%)の順となっている。勉強や研究を行うことが大学生活で最も重視されている現状が明らかになった。この他に、就職活動や自己啓発といった回答も見られ、卒業後の将来について考えている様子もうかがえた。



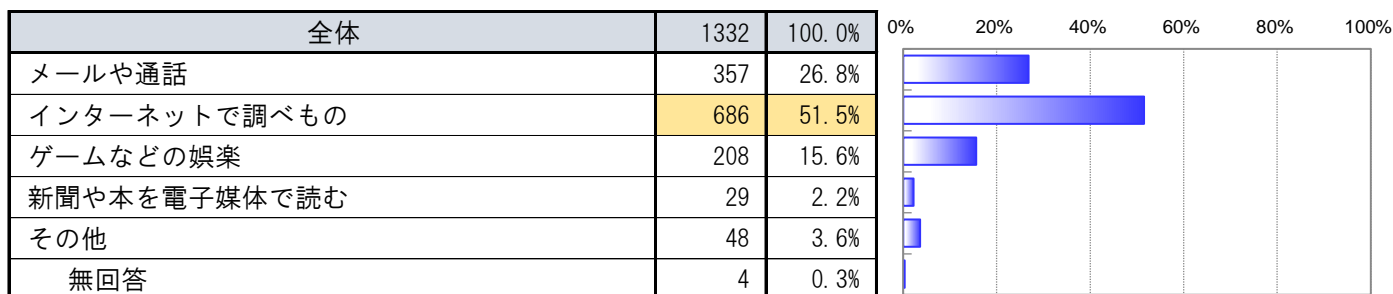
6 携帯・スマホ・PCのメールやインターネット使用時間 (1日平均)

全体では「3時間以上」と回答したものが455件(34.2%)、「2～3時間未満」409件(30.7%)、「1～2時間未満」337件(25.3%)の順になっている。30分未満という回答は24件(1.8%)となっており、ほとんどの学生が2時間以上はインターネットなどに触れているという現状が明らかになった。逆に、1時間未満と回答した学生は30分未満も併せると全体の9%程度となり、インターネットなどの使用時間が比較的長い傾向にあることが分かった。



7 携帯・スマホ・PCの1番の利用目的

全体では「インターネットで調べ物」が686件と全体の51.5%を占め、次に「メールや通話」が357件(26.8%)、「ゲームなどの娯楽」が208件(15.6%)となっている。新聞や本を電子媒体で読むと回答したものは全体の2.2%に過ぎず、利用目的としては少ないものとなっている。また、論文検索やレポート作成、研究データのまとめといった回答も見られ、回答者の学年によって違いがあると考えられる。



V. 通学・居住について

1 通学に利用している交通機関

通学に使用している公共交通機関は、「電車」が882件（66.2%）、「バス」が12件（0.9%）であった。「徒歩のみ」および「自転車」での通学は、それぞれ226件（17.0%）、195件（14.6%）であった。

全体	1332	100.0%
電車	882	66.2%
バス	12	0.9%
自転車	195	14.6%
徒歩のみ	226	17.0%
その他	10	0.8%
無回答	7	0.5%

2 片道の通学時間

全体では片道の通学時間については、「15分以内」が334件（25.1%）、「1時間30分以内」が328件（24.6%）、「1時間以内」が215件（16.1%）の順となっている。通学に1時間以上かけている学生は全体の37.9%である。

全体	1332	100.0%
15分以内	334	25.1%
30分以内	127	9.5%
45分以内	145	10.9%
1時間以内	215	16.1%
1時間30分以内	328	24.6%
2時間以内	145	10.9%
2時間を超える	32	2.4%
無回答	6	0.5%

3 現在の住居の区分

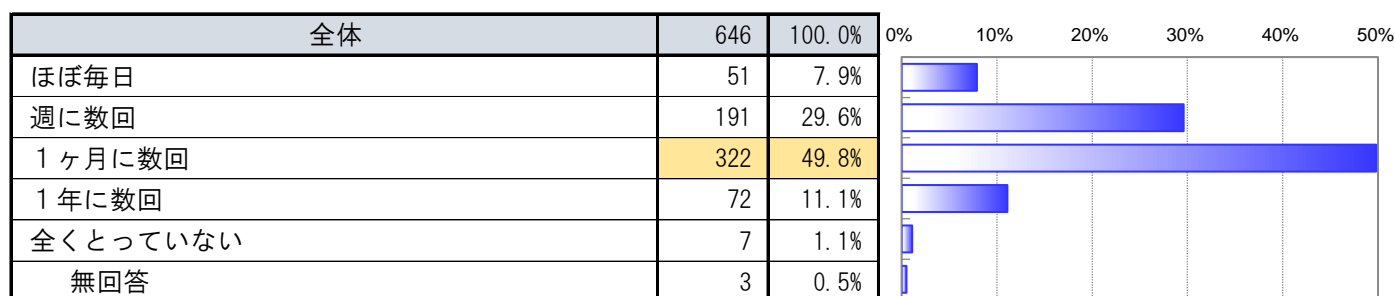
現在の住居区分は、「自宅」664件（49.8%）、「自宅外（賃貸マンション・アパート）」338件（25.4%）、「自宅外（学生寮・国際交流会館）」274件（20.6%）の順となっている。回答者全体の半数が自宅外から通学しており、自宅外から通学する学生の52.3%が賃貸マンション・アパートを、42.4%が学生寮・国際交流会館を利用している。

全体	1332	100.0%
自宅	664	49.8%
自宅外（賃貸マンション・アパート）	338	25.4%
自宅外（学生寮・国際交流会館）	274	20.6%
自宅外（その他）	34	2.6%
無回答	22	1.7%

4 家族と連絡をとる頻度

【回答条件】V-3 現在の住居の区分…自宅外

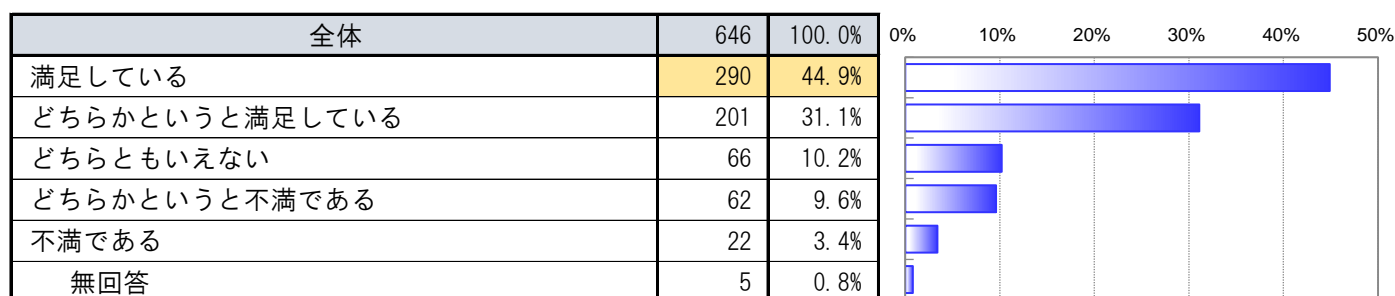
現在の住居区分が自宅外の学生が家族と連絡をとる頻度は、「1か月に数回」322件（49.8%）、「週に数回」191件（29.6%）となっている。「1年に数回」の頻度が72件（11.1%）みられるが、1か月内に連絡をとる頻度は87.3%であり、ほとんどの学生が定期的に家族と連絡をとっていることが分かる。



5 住居の住み心地

【回答条件】V-3 現在の住居の区分…自宅外

現在住居区分が自宅外の学生について、現在の住居の満足度は、「満足している」290件（44.9%）、「どちらかという満足している」201件（31.1%）であり、76.0%の学生が現在の住居に概ね満足していることが分かる。一方で、「どちらかという不満である」62件（9.6%）、「不満である」22件（3.4%）という意見もみられる。

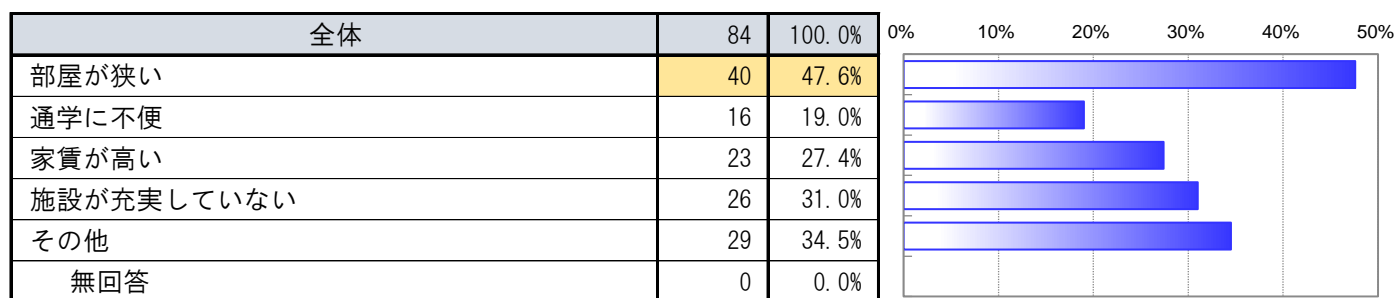


6 住居について不満に感じている点 [2つまで回答可]

【回答条件】V-3 現在の住居の区分…自宅外

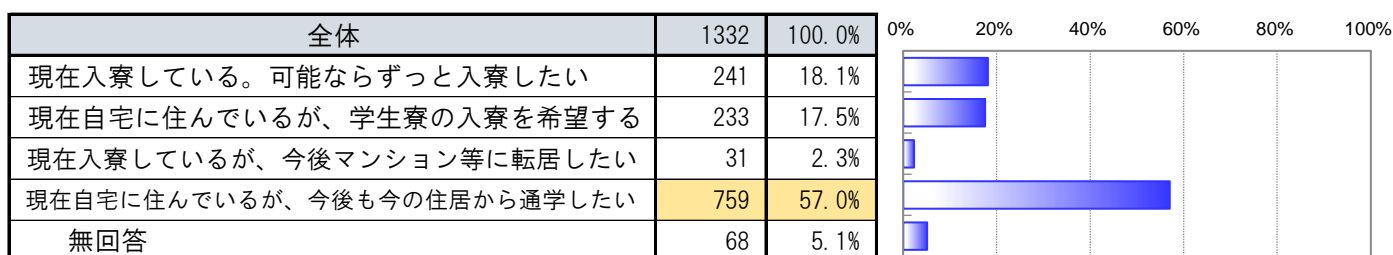
V-5 住居の住み心地…不満、どちらかという不満

現在の住居区分が自宅外で、住居の住み心地が「不満」、「どちらかという不満」という意見84件の内訳は、「部屋が狭い」40件（47.6%）、「施設が充実していない」26件（31.0%）、「家賃が高い」23件（27.4%）、「通学に不便」16件（19.0%）である。



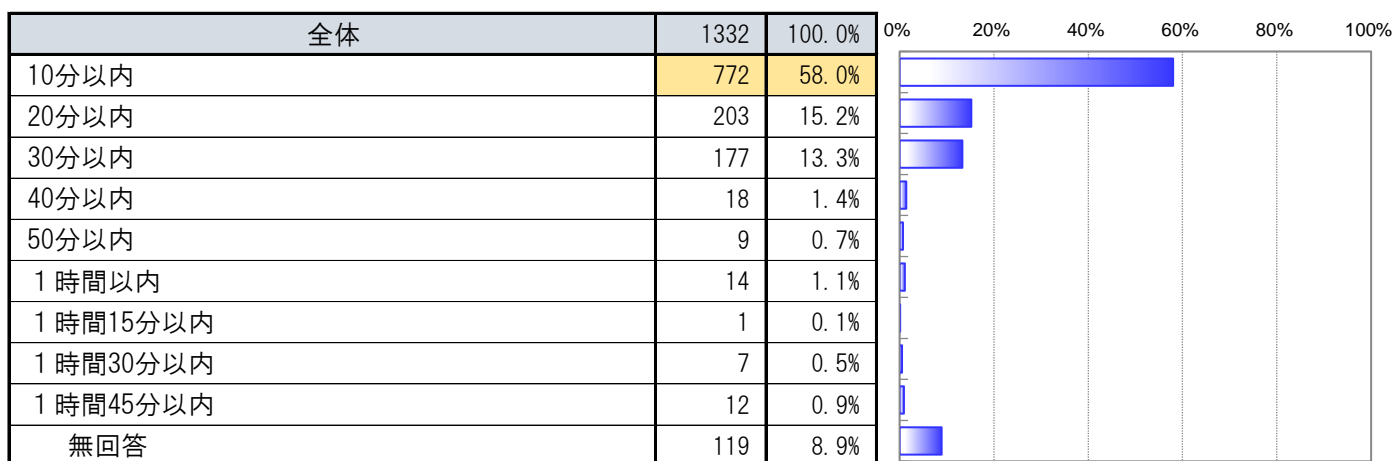
7 学生寮についてどう思うか

全体では、「現在自宅に住んでいるが、今後も今の住居から通学したい」759件（57.0%）、「現在入寮している。可能ならずっと入寮したい」241件（18.1%）の順となっており、V-5にあるように多くの学生が現在の住居に概ね満足していることが分かる。現在入寮している学生のうち、今後も入寮を希望する学生は18.1%、今後マンション等に転居したい学生は2.3%である。一方で、現在自宅に住んでいるが今後学生寮への入寮の希望意見も17.5%みられる。



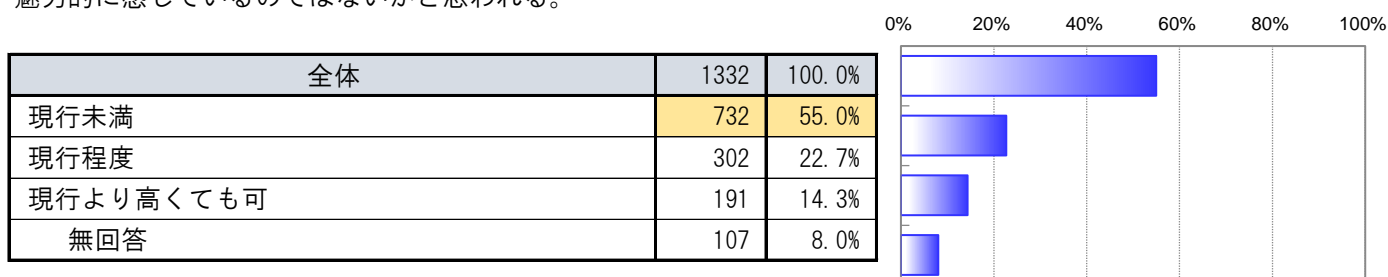
8 どの位の通学時間なら入寮したいか

全体では「10分以内」772件（58.0%）、「20分以内」203件（15.2%）、「30分以内」177件（13.3%）の順になっており、通学時間が30分以下なら入寮を希望する学生の割合は86.5%である。



9 学生寮の料金（共益費・光熱水料含む）がいくら位なら入寮したいか

全体では、「現行未満」732件（55.0%）が全体の過半数を占める一方で、「現行程度」302件（22.7%）、「現行より高くても可」191件（14.3%）という意見もみられた。このように、現在の寮費より高くても入寮したいという意見もみられる。これはV-6に示すように家賃や通学の利便性の点で現在の住居に不満のある学生にとって、学生寮を魅力的に感じているのではないかとと思われる。

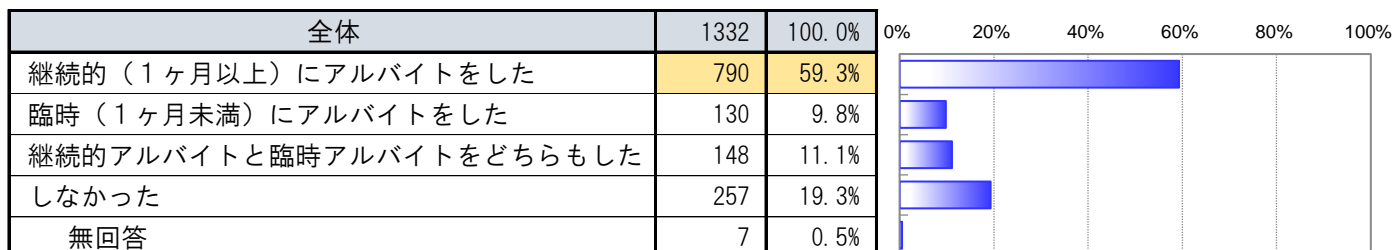


VI. アルバイトについて

1 過去1年間にアルバイトをしたか

全体では、「継続的（1ヶ月以上）にアルバイトをした」790件（59.3%）、「しなかった」257件（19.3%）、「継続的アルバイトと臨時アルバイトをどちらもした」148件（11.1%）の順となっている。

アルバイトを行っている学生は全体の約80%にも達している。本学や他大学が過去に実施したアンケート調査に比べると、その割合は若干高いようではあるが、これが学生の生活の困窮度や保護者の経済上の困難と相関関係があるのか否かについては必ずしも明白ではない。



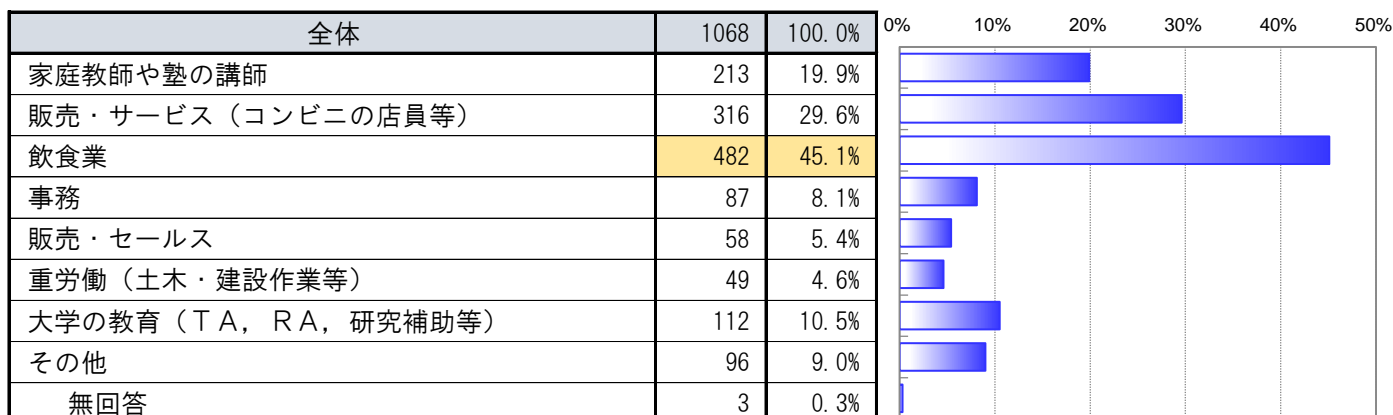
2 アルバイトの種類 [2つまで回答可]

【回答条件】VI-1 過去1年間にアルバイトをしたか…アルバイトをした

全体では、「飲食業」482件（45.1%）、「販売・サービス（コンビニの店員等）」316件（29.6%）、「家庭教師や塾の講師」213件（19.9%）の順となっている。

学生が継続的に従事可能でかつ比較的高額な収入が見込めるアルバイトは家庭教師や塾講師、あるいは大学の教育（TA、RA、研究補助等）であるが、飲食業におけるアルバイトが全体の半分近くに達している。これは同業界における慢性的な人手不足がゆえの傾向であるとも考えられる。

自由記述から見るとアルバイトの職種については特殊なものは多くなく、ジムのインストラクターやイベントスタッフ、清掃業などが複数見られている。一方、車の運転などを伴っていると考えられる物流や運送関係の仕事に従事する学生も少なくない。

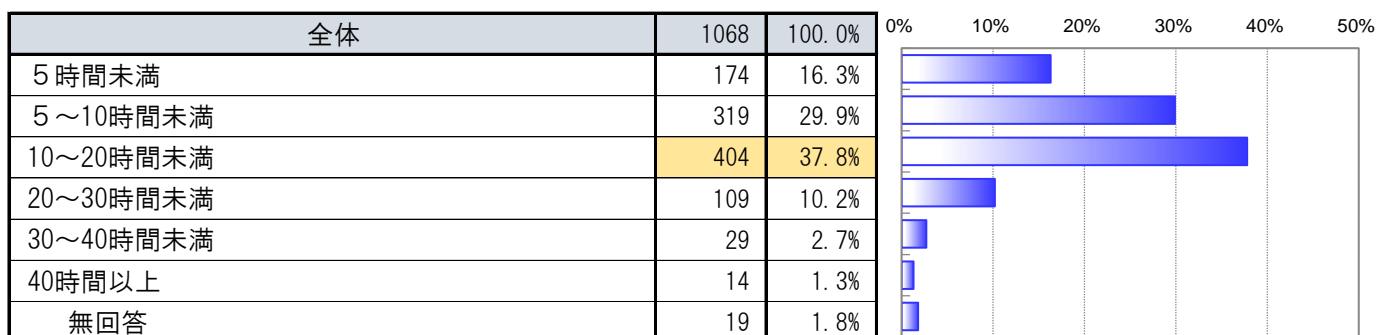


3 1週間のアルバイト従事時間（往復の時間含む）

【回答条件】VI-1 過去1年間にアルバイトをしたか…アルバイトをした

全体では、「10～20時間未満」404件（37.8%）、「5～10時間未満」319件（29.9%）、「5時間未満」174件（16.3%）の順となっている。

1週間に10時間から20時間をアルバイトに費やす学生が全体の40%近くに達しており、さらに30時間までの学生も含めると全体の半分近くとなる。週20時間としても、1日平均3時間弱となるなど、勉学への影響が懸念される。



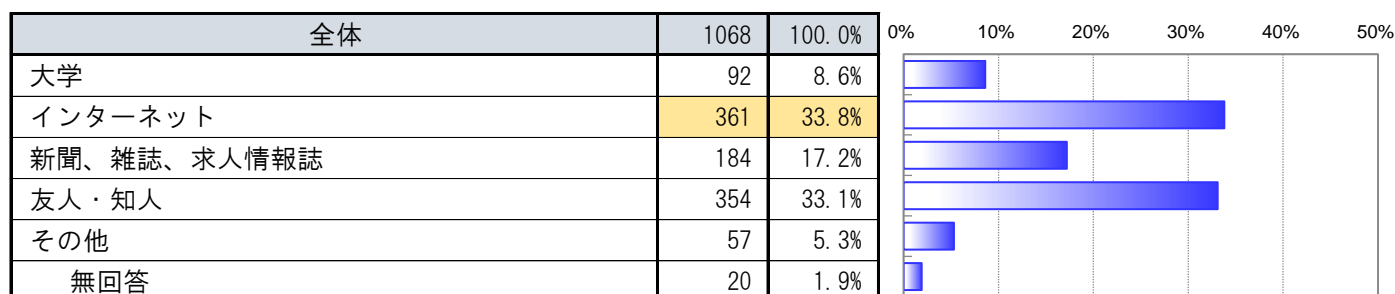
4 どこでアルバイトの紹介を受けたか

【回答条件】Ⅶ-1 過去1年間にアルバイトをしたか…アルバイトをした

全体では、「インターネット」361件（33.8%）、「友人・知人」354件（33.1%）、「新聞、雑誌、求人情報誌」184件（17.2%）の順となっている。

大学にはアルバイト求人が掲示されてきてはいるが、利用者は10%にも満たない。友人・知人からの紹介では、先輩などから海関係の特別なアルバイトを継承するという話は良く聞くものである。

自由記述からはアルバイト先の紹介について、近所や指導教員からというものもあり、後者については学生と仕事先の間に関係者が介在するという事になり、大学生へのアルバイト斡旋には理想的な形であると思われる。

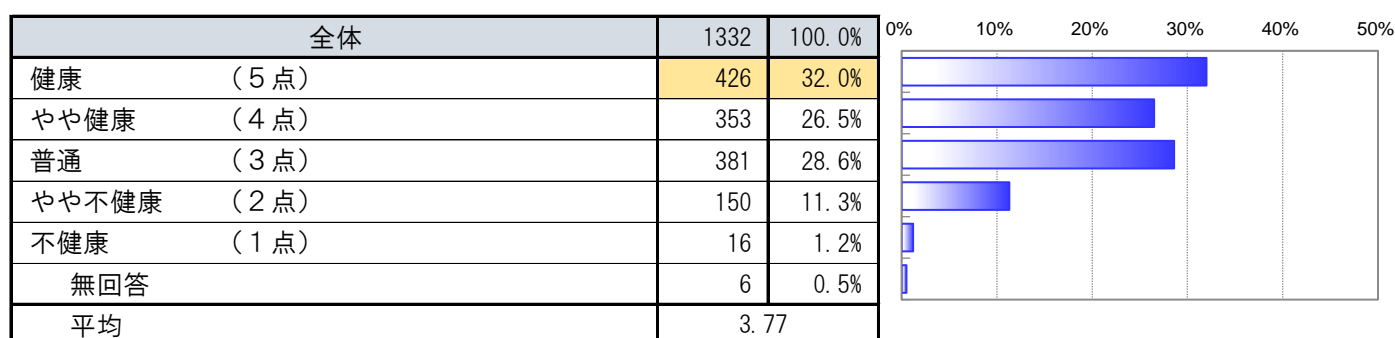


Ⅶ. 健康・悩みなどについて

1 健康状況について

全体では、「健康」426件（32.0%）、「普通」381件（28.6%）、「やや健康」353件（26.5%）の順となっている。

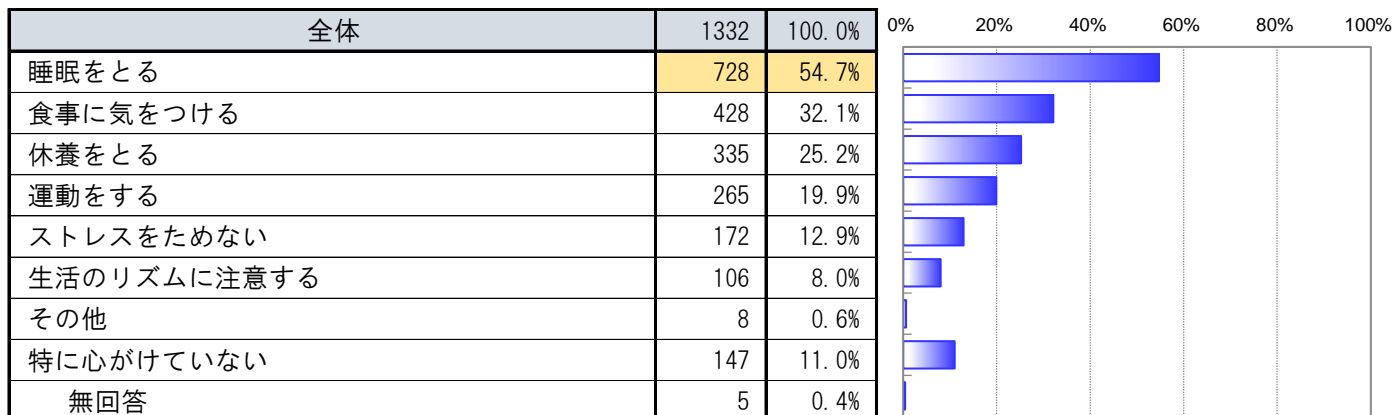
「健康」、「やや健康」、「普通」を含めると全体の85%以上に達しており、本学学生の大多数は健康にはとくに大きな問題は抱えていないようである。しかしながら、「やや不健康」と「不健康」の学生が12%以上もいるということは、各学科において平均すれば1割以上の学生が不健康であるということである。最近の傾向として、精神的な健康面に問題を抱えている学生も多い。



2 健康のために心がけていること [2つまで回答可]

全体では、「睡眠をとる」728件 (54.7%)、「食事に気をつける」428件 (32.1%)、「休養をとる」335件 (25.2%)の順となっている。

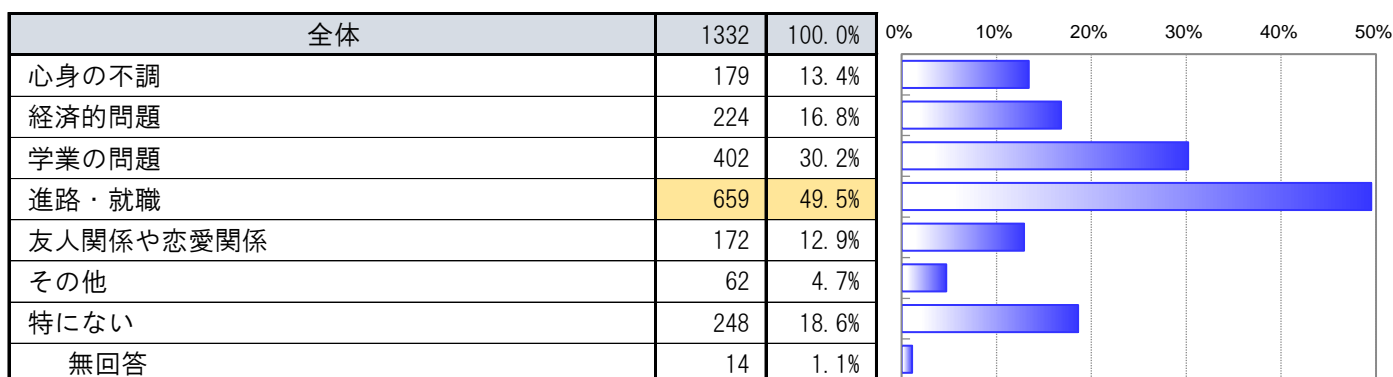
健康法については、平均的な日本人一般の心がけと大きな相違は認められない。一部の学生からは実験などが長引いた際に学生食堂において夕食が摂れればありがたいという要望も寄せられている。



3 現在抱えている悩みや不安 [2つまで回答可]

全体では、「進路・就職」659件 (49.5%)、「学業の問題」402件 (30.2%)、「経済的問題」224件 (16.8%)の順となっている。また、「特にない」が248件 (18.6%)となっている。

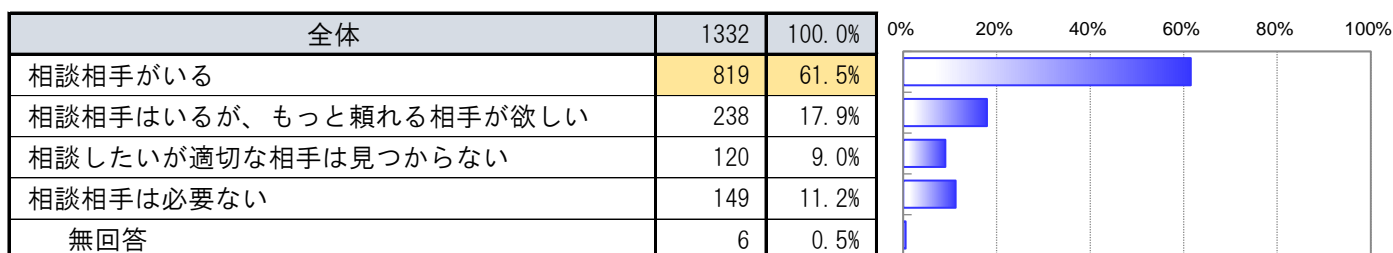
将来が見通せない時代にあって、学生が一番の不安を進路や就職の問題としているのは当然である。学業の問題もそれに密接にかかわっている項目である。一方、心身の不調が13%程度となっているのは、Ⅶ-1の数値とほぼ一致している。



4 悩みや不安が生じたときの相談相手

全体では、「相談相手がいる」819件 (61.5%)、「相談相手はいるが、もっと頼れる相手が欲しい」238件 (17.9%)、「相談相手は必要ない」149件 (11.2%)の順となっている。

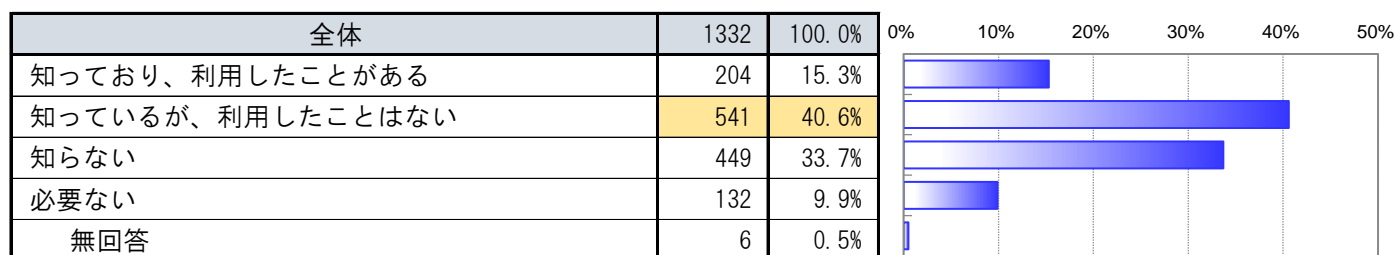
相談相手がいる学生が半数以上であるが、より適切な相談相手を求めていたり、相談相手がない学生も25%ほど存在している。



5 保健管理センターでの健康相談／認識とその利用

全体では、「知っているが、利用したことはない」541件（40.6%）、「知らない」449件（33.7%）、「知っており、利用したことがある」204件（15.3%）の順となっている。

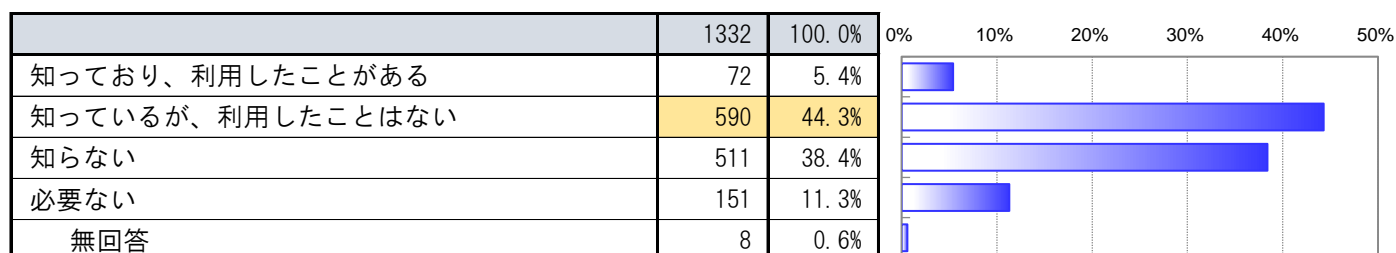
保健管理センターでの健康相談の存在を「知らない」という学生が30%以上もあり、また、「知っているが、利用したことはない」という学生も40%もいる。



6 学生相談室での学生生活相談／認識とその利用

全体では、「知っているが、利用したことはない」590件（44.3%）、「知らない」511件（38.4%）、「必要ない」151件（11.3%）の順となっている。

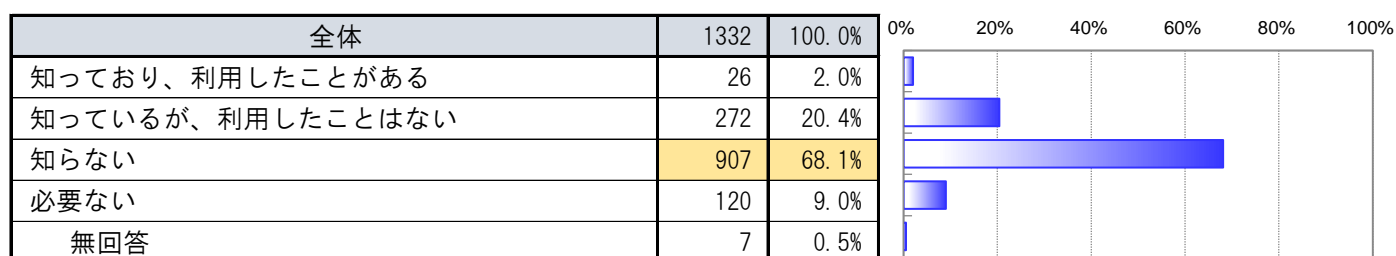
学生相談室での学生生活相談の存在を「知らない」という学生が40%近くもいた。



7 「学生意見箱」／認識とその利用

全体では、「知らない」907件（68.1%）、「知っているが、利用したことはない」272件（20.4%）、「必要ない」120件（9.0%）の順となっている。

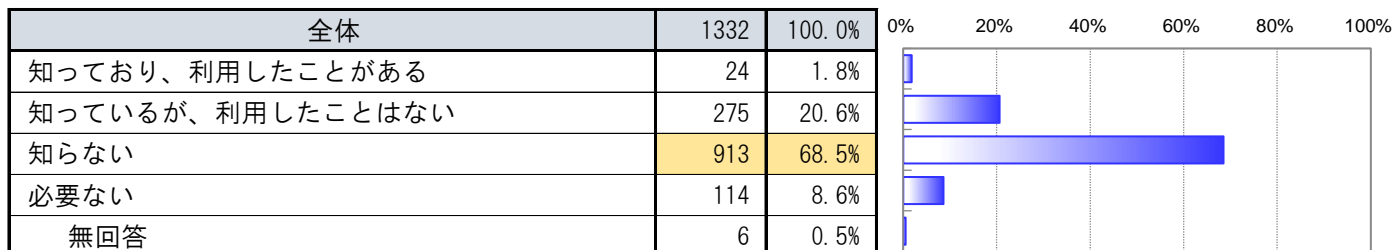
「学生意見箱」の存在を「知らない」という学生が70%近くもあり、「知っており、利用したことがある」という学生が全体の2%であった。他方、「必要ない」という学生は10%以下にとどまっていた。



8 「なんでも相談窓口」／認識とその利用

全体では、「知らない」913件（68.5%）、「知っているが、利用したことはない」275件（20.6%）、「必要ない」114件（8.6%）の順となっている。

「なんでも相談窓口」の存在を「知らない」という学生が70%近くもおり、「知っており、利用したことがある」という学生が全体の2%にも満たなかった。他方、「必要ない」という学生は10%以下にとどまっていた。

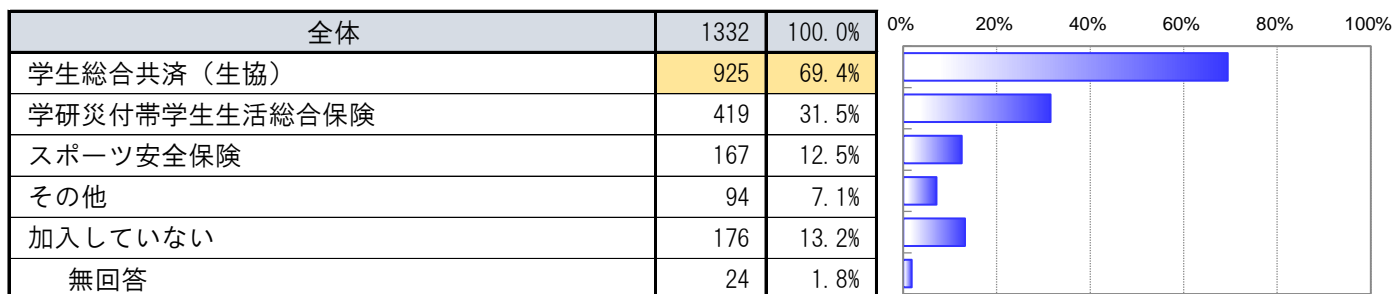


9 大学での義務以外の保険に加入しているか [複数回答可]

全体では、「学生総合共済（生協）」925件（69.4%）、「学研災付帯学生生活総合保険」419件（31.5%）、「スポーツ安全保険」167件（12.5%）の順となっている。

また、「加入していない」が176件（13.2%）となっている。

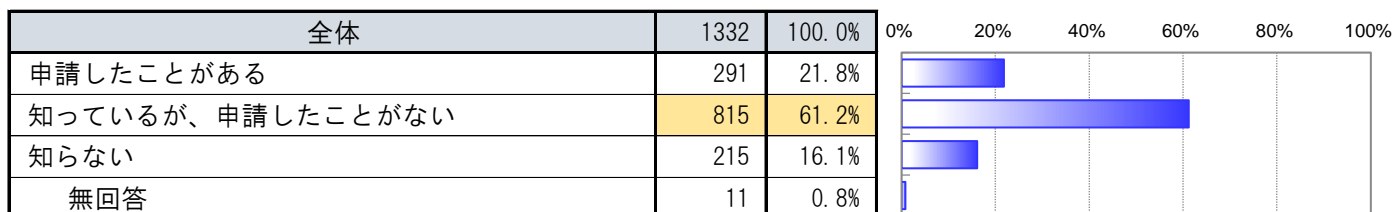
学生総合共済（生協）への加入者が70%近く、学研災付帯学生生活総合保険への加入者が30%以上となっているが、任意保険に全く加入していない学生も13%以上おり、傍観できない事態である。



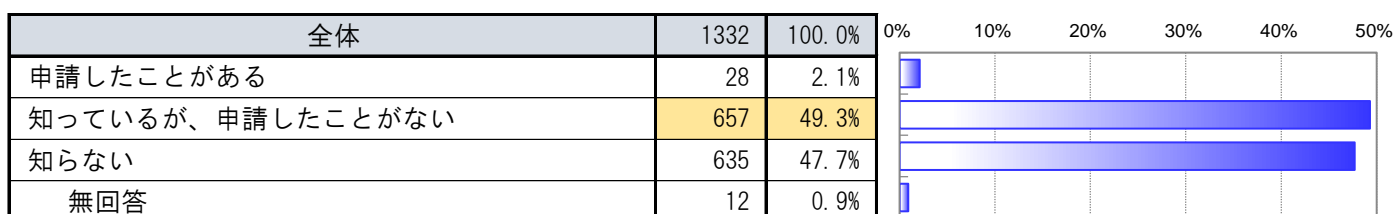
Ⅷ. 大学の経済支援について

1 「授業料免除」の申請

全体では、「知っているが、申請したことがない」が815件と61.2%を占め、「申請したことがある」と回答したものは291件と全体の21.8%となった。また、「知らない」と回答したものは215件で全体の16.1%にも上った。

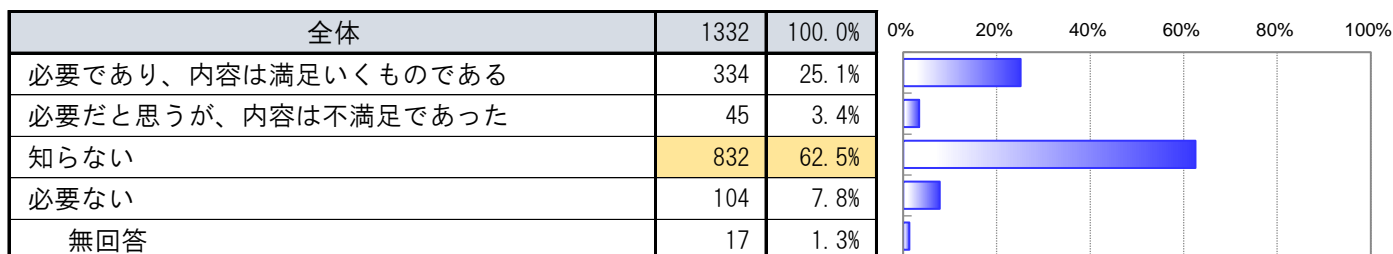


2 「東京海洋大学経済支援給付制度」の申請



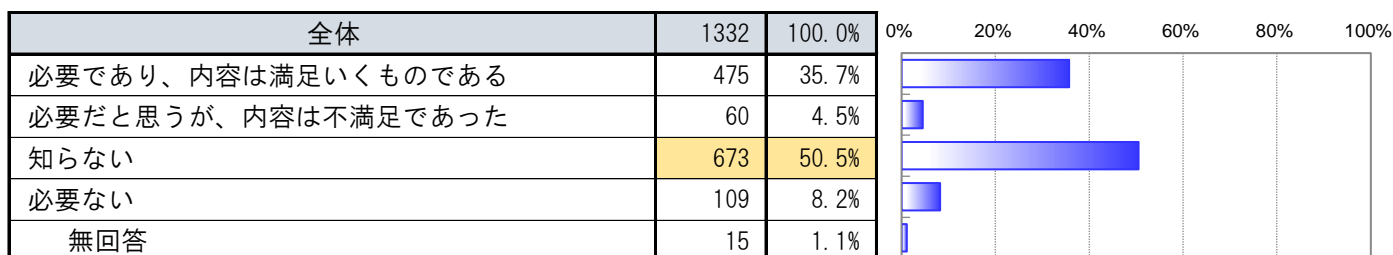
3 「東京海洋大学経済支援給付制度」の要否・是非

全体では「知らない」が832件と全体の62.5%を占め、続いて「必要であり、内容は満足いくものである」が334件(25.1%)、「必要ない」が104件(7.8%)の順となっている。



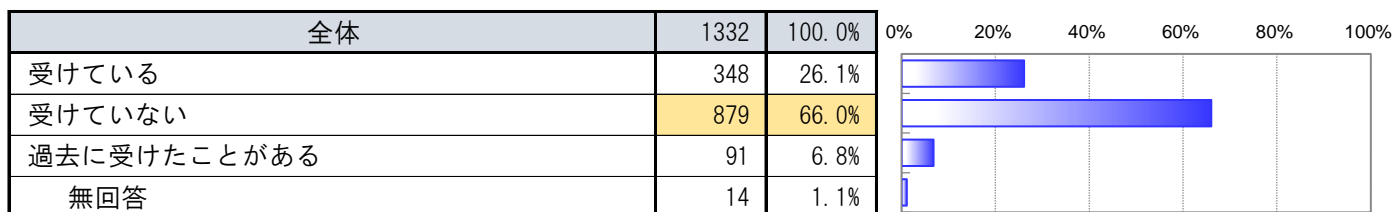
4 「東京海洋大学学業優秀学生奨学金」の要否・是非

全体では「知らない」が673件と全体の約半数(50.5%)を占めた。続いて「必要であり、内容は満足いくものである」が475件(35.7%)、「必要ない」が109件(8.2%)の順となっている。自由記述では内容は知らないといった意見や、経済的な制限を外し、学業優秀なら奨学金を与えるという方がモチベーションが上がるという意見も見られた。



5 日本学生支援機構または他の団体からの奨学金を受けているか

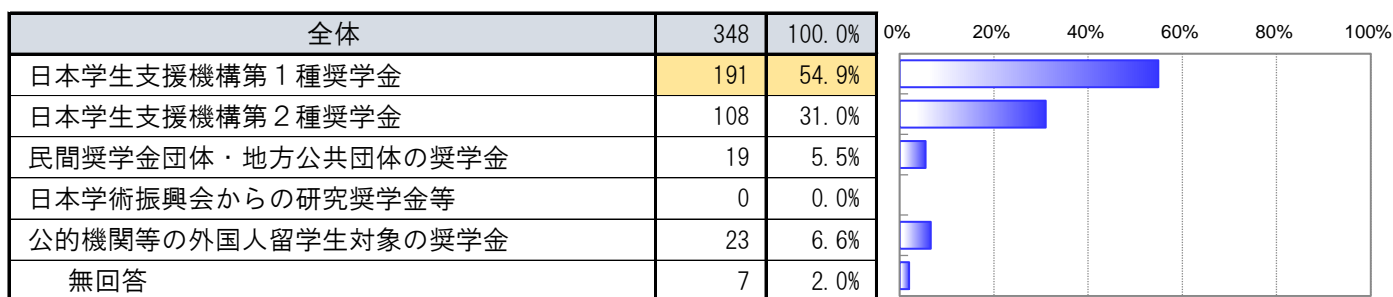
全体では「受けていない」と回答したものが879件と全体の66.0%となった。また、「受けている」と答えたものが348件(26.1%)となり、「過去に受けたことがある」と回答したものは91件(6.8%)となった。およそ3分の1にあたる学生が奨学金を受領していることが分かった。



6 どの奨学金を受けているか

【回答条件】Ⅶ-5 日本学生支援機構または他の団体からの奨学金…受けている

Ⅶ-5で日本学生支援機構または他の団体からの奨学金を受けていると回答したものに質問したが、全体では「日本学生支援機構第一種奨学金」と答えたものが191件と全体の54.9%を占めた。続いて「日本学生支援機構第二種奨学金」と回答したものが108件(31.0%)となり、日本学生支援機構からの奨学金は第一種、第二種を合わせるとおよそ85%にも上ることが分かった。また、外国人留学生対象の奨学金を受領している学生も6.6%いることが明らかになった。一方、民間奨学金団体・地方公共団体の奨学金は5.5%だった。



7 奨学金の月額はいくらか

【回答条件】Ⅷ-5 日本学生支援機構または他の団体からの奨学金…受けている

Ⅷ-5で日本学生支援機構または他の団体からの奨学金を受けていると回答したものに質問した。全体では「5～10万円未満」と回答したものが全体の半数に上る177件（50.9%）となった。「5万円未満」が127件（36.5%）、「10万円以上」が43件（12.4%）となった。

全体	348	100.0%
5万円未満	127	36.5%
5万円～10万円未満	177	50.9%
10万円以上	43	12.4%
無回答	1	0.3%

IX. 課外活動について

1 どのような課外活動団体に所属しているか [2つまで回答可]

全体では、「大学公認の運動系サークル」454件（34.1%）、「大学公認の文化系サークル」405件（30.4%）、「非公認の学内サークル」121件（9.1%）の順となっている。また、「加入していない」が434件（32.6%）であった。

全体として約3分の2（全体100%－加入していない32.6%－無回答0.8%＝66.6%）がサークルに所属していた。また、サークル加入者には、複数のサークルに所属している者もあることを示している。

全体	1332	100.0%
大学公認の運動系サークル	454	34.1%
大学公認の文化系サークル	405	30.4%
非公認の学内サークル	121	9.1%
学外のサークル	78	5.9%
加入していない	434	32.6%
無回答	10	0.8%

2 サークル加入の理由・動機 [2つまで回答可]

【回答条件】Ⅸ-1 どのような課外活動団体に所属しているか…いずれかに加入している

全体では、多い順に「興味があるから」395件（44.5%）、「好きだから」251件（28.3%）、「友人が欲しいから」242件（27.3%）が挙げられており、自身の興味と友人を作ることが主な理由・動機だったものが多いと理解される。

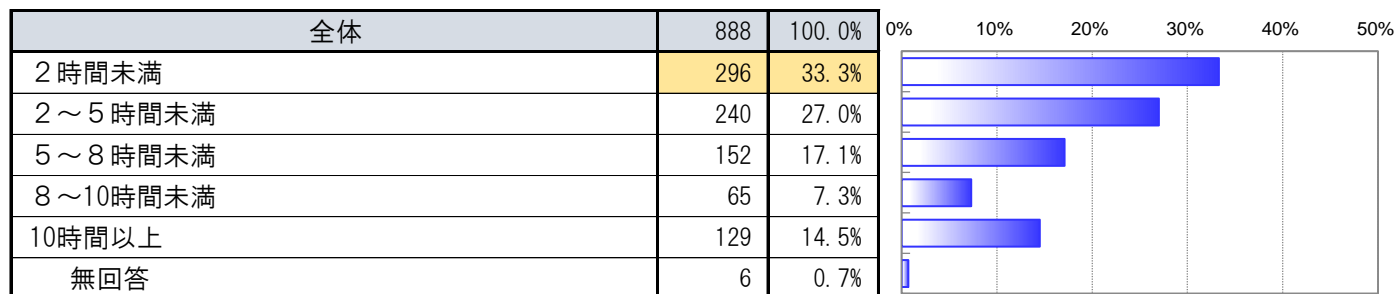
次いで、「知識・教養・技術を習得するため」160件（18.0%）、「健康増進になるから」86件（9.7%）、「団体生活・社会性を身につけられるから」80件（9.0%）、などのレベルアップを意図した理由・動機があり、また「高校時代からの継続として」115件（13.0%）、「先輩友人の勧められたから」68件（7.7%）といった理由・動機もあった。

全体	888	100.0%
友人が欲しいから	242	27.3%
知識・教養・技術を習得するため	160	18.0%
健康増進になるから	86	9.7%
興味があるから	395	44.5%
団体生活・社会性を身につけられるから	80	9.0%
レクリエーションとして	63	7.1%
就職に有利になるから	26	2.9%
高校時代からの継続として	115	13.0%
先輩友人に勧められたから	68	7.7%
伝統があるから	21	2.4%
資格を得るため	9	1.0%
好きだから	251	28.3%
無回答	3	0.3%

3 1週間あたりの活動時間

【回答条件】Ⅹ-1 どのような課外活動団体に所属しているか…いずれかに加入している

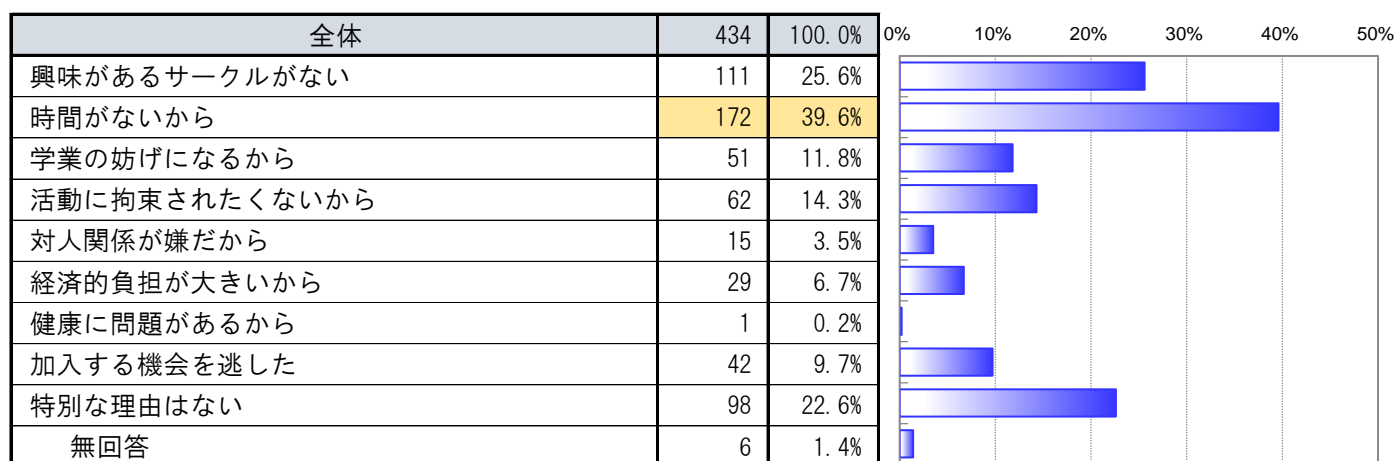
最も多かったのが「2時間未満」296件で約3分の1（33.3%）、次いで、「2～5時間未満」240件（27.0%）、「5～8時間未満」152件（17.1%）、「10時間以上」129件（14.5%）の順であった。個人の活動時間には幅があると感じられるが、週に2時間未満のものが3分の1に及んでいるのは授業や他のことによる時間のなさをうかがわせる。



4 課外活動団体に加入していない理由 [2つまで回答可]

【回答条件】Ⅹ-1 どのような課外活動団体に所属しているか…加入していない

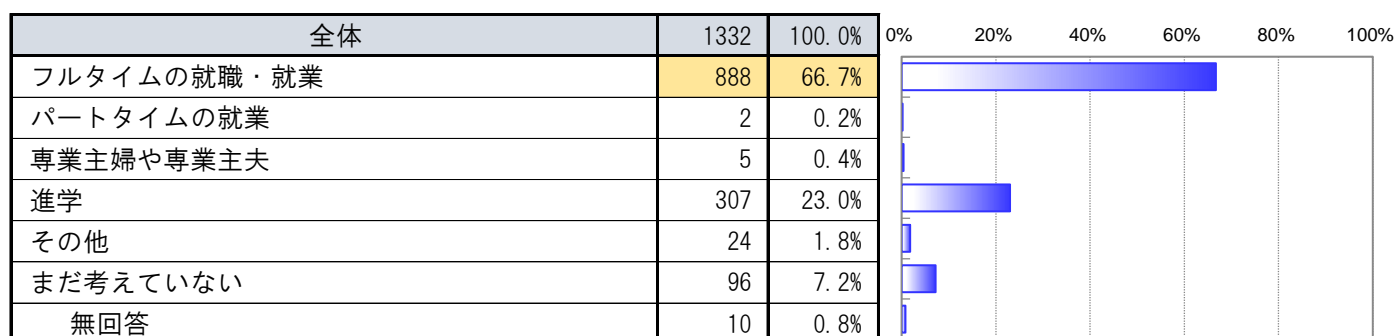
全体では、「時間がないから」172件（39.6%）がトップの理由であった。4位の「活動に拘束されたくないから」62件（14.3%）、5位の「学業の妨げになるから」51件（11.8%）も合わせて、課外活動以外のことに時間を使いたいものが多いと感じられる。また、2位の「興味があるサークルがない」111件（25.6%）と3位の「特別な理由はない」98件（22.6%）から、サークル活動にあまり関心がないものも少なくないと感じられる。



X. 進路・就職について

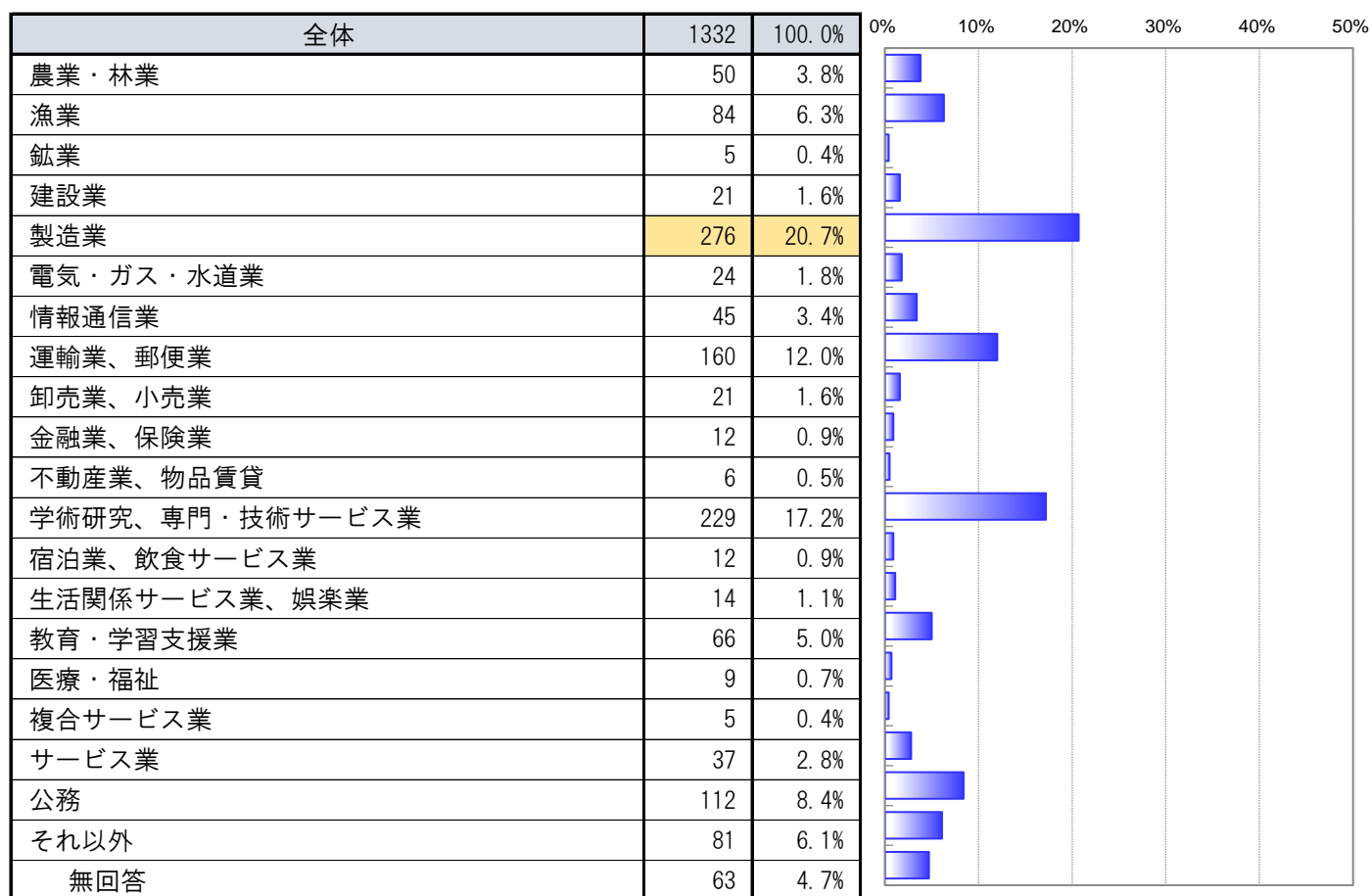
1 卒業後希望する進路

全体の888件（66.7%）が「フルタイムの就職・就業」希望、307件（23.0%）が「進学」希望であり（まだ考えていないは7.2%）、大部分のものが進路を考えており、1年次から進路を考えているものが少なくない。また、就職希望が進学希望の3倍近くに及んでいる。これらの背景には、水産、海事など具体的な産業に繋がる実学重視の本学に在籍して、将来の活躍の場を意識している学生が多いためと推測される。「その他」24件（1.8%）も、自由記述より見ると教員、航海士などの具体的な職種がほとんどだった。しかし、学年別のデータでは進学希望は概ね学年が上がるにつれて増える傾向があり、実際の進学率が毎年30%以上であることも考え合わせると、大学での勉強が進むにつれて進学してより深く追求したいという希望が強くなる傾向がある。



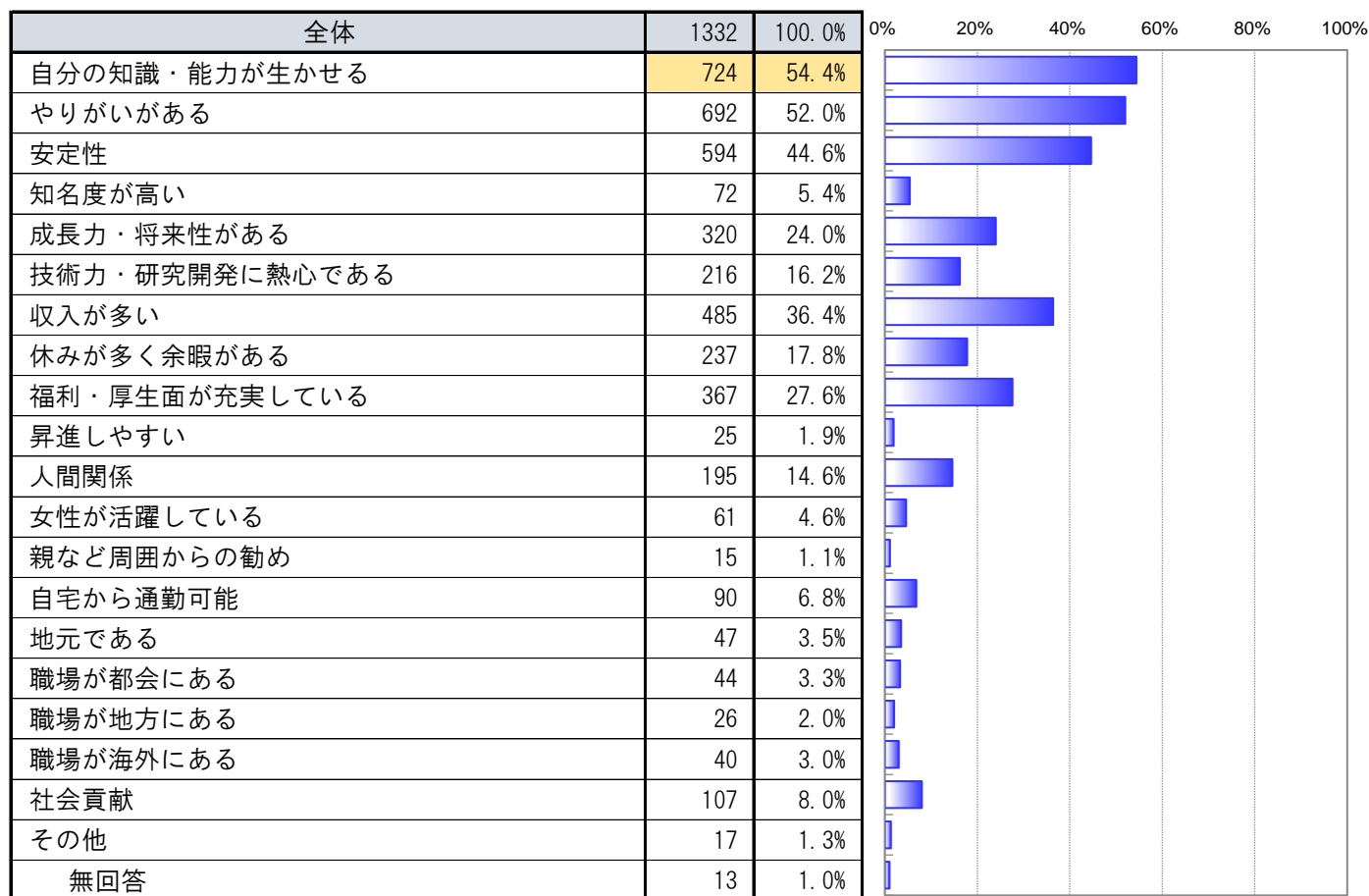
2 将来就職を希望する業種

1位～3位が「製造業」276件（20.7%）、「学術研究、専門・技術サービス業」229件（17.2%）、「運輸業、郵便業」160件（12.0%）の順であった。これらの分野には多数の会社が存在し、多くの卒業生もそれらの分野で活躍していることが学生の意識に反映していると想像される。学術研究などを希望する者が17%以上に及んでいるのは、海洋、水産、海事などの分野に開拓・研究する興味の対象を見つけ、あるいは専門性の高い職種への就職を希望するためと想像される。「それ以外」6.1%も、自由記述より見ると食品会社、航海士、教授など、1～3位の業種に該当するものが多かった。



3 就職先を選ぶ場合に重視すること [4つまで回答可]

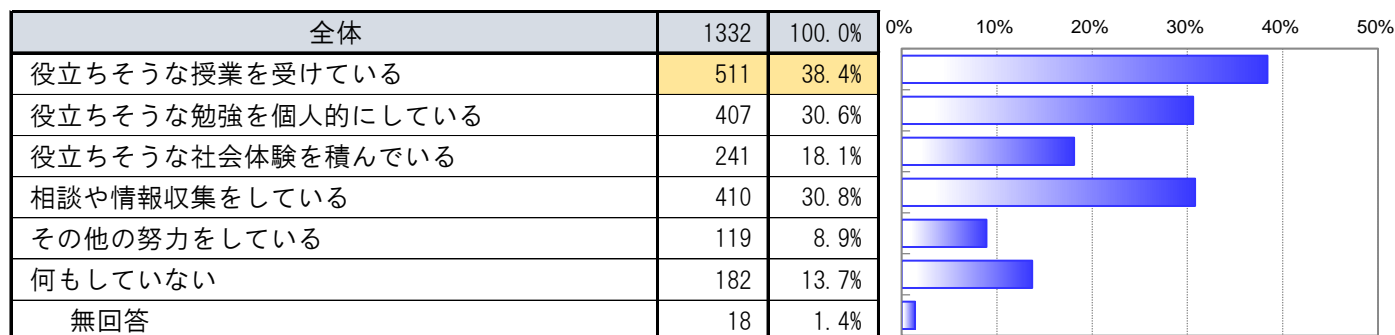
1位は、「自分の知識・能力が生かせる」724件 (54.4%)、2位は、「やりがいがある」692件 (52.0%) で、8位の「技術力・研究開発に熱心である」216件 (16.2%) も含めて自分の力を発揮できる仕事をしたいと希望するものが多い。3位～7位には、「安定性」594件 (44.6%)、「収入が多い」485件 (36.4%)、「福利・厚生面が充実している」367件 (27.6%)、「成長力・将来性がある」320件 (24.0%)、「休みが多く余暇がある」237件 (17.8%) が続き、働く場としての条件の良さも意識しているものが多い。



4 希望する進路をかなえるためにしていること [2つまで回答可]

全体では、「役立ちそうな授業を受けている」511件 (38.4%)、「相談や情報収集をしている」410件 (30.8%)、「役立ちそうな勉強を個人的にしている」407件 (30.6%) の順となっている。

1位～4位は、役に立ちそうなこと (授業38.4%、相談や情報収集30.8%、個人的な勉強30.6%、社会体験18.1%) をしているで、「その他の努力をしている」119件 (8.9%) も含めて、希望する進路をかなえるために何かしているものが多かった。「何もしていない」182件 (13.7%) と「無回答」18件 (1.4%) を合わせた15.1%を除く85%近くのものが希望進路のために何かをしていると判断される。



5 就職相談窓口の利用とその内容

全体では「利用していない」535件（40.2%）と「就職窓口を知らなかった」494件（37.1%）が多く、利用している（内容に満足17.4%、内容に不満3.6%）を大きく上回っていた。利用者の間では8割以上が内容に満足と回答していた。自由記述より、利用していない理由は、就職活動は自分でするから不必要などが多く、まだ活動を始めていない・方針が決まっていない、時間が無い・タイミングが合わないなども多かった。最近では、学生がメール等で情報交換する傾向が強く、直接対面して利用する窓口に対する関心が薄いことも背景にあるのかもしれない。

全体	1332	100.0%
利用しており、内容は満足 of いくものである	232	17.4%
利用しているが、内容は不満足であった	48	3.6%
就職窓口を知らなかった	494	37.1%
利用していない	535	40.2%
無回答	23	1.7%

6 大学外で資格取得のために通学したことがあるか

「通ったことはない」が1185件（89.0%）で、「通ったことがある」79件（5.9%）や「通っている」36件（2.7%）より圧倒的に多かった。

全体	1332	100.0%
通っている	36	2.7%
通う予定がある	19	1.4%
通ったことがある	79	5.9%
通ったことはない	1185	89.0%
無回答	13	1.0%

XI. 大学への要望について

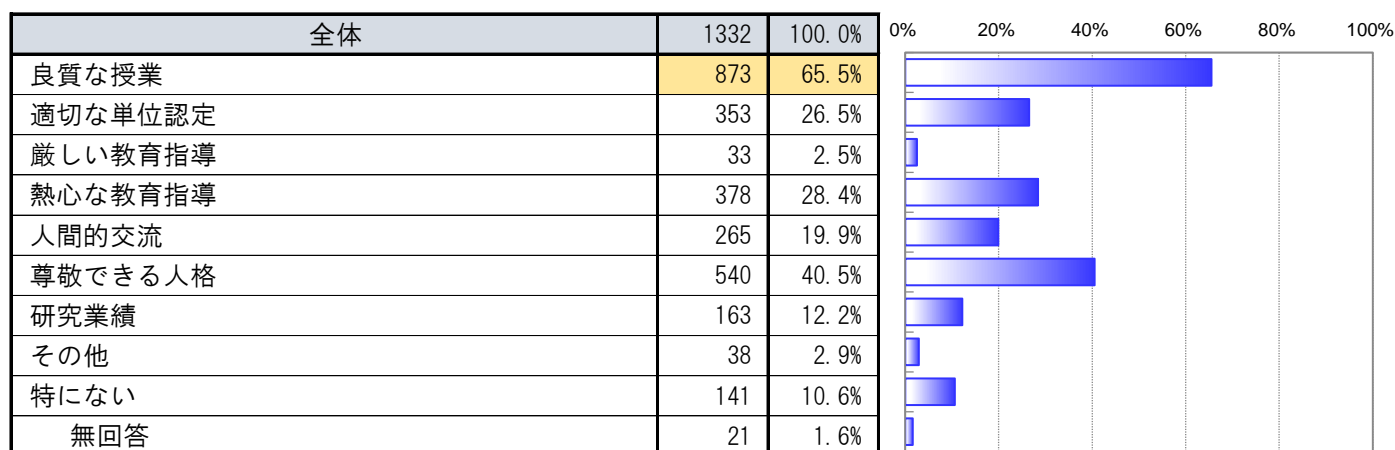
1 大学に対する要望や意見 [3つまで回答可]

1位は、「カリキュラムの改善・充実」403件（30.3%）、3位は、「教室等の施設・設備の充実」300件（22.5%）で、4～7位に、「就職支援の充実」246件（18.5%）、「奨学金など経済的援助の充実」225件（16.9%）、「学生サービスの窓口業務の改善」211件（15.8%）、「課外活動関係の設備・施設の充実」174件（13.1%）の各充実が続いていた。一方、「特にない」310件（23.3%）が2位で全体の4分の1であった。

全体	1332	100.0%
カリキュラムの改善・充実	403	30.3%
著名な教職員の採用	98	7.4%
教室等の施設・設備の充実	300	22.5%
福利・厚生関係の施設・設備の充実	88	6.6%
課外活動関係の設備・施設の充実	174	13.1%
奨学金など経済的援助の充実	225	16.9%
就職支援の充実	246	18.5%
学生サービスの窓口業務の改善・充実	211	15.8%
学生のメンタルケア	47	3.5%
その他	116	8.7%
特にない	310	23.3%
無回答	54	4.1%

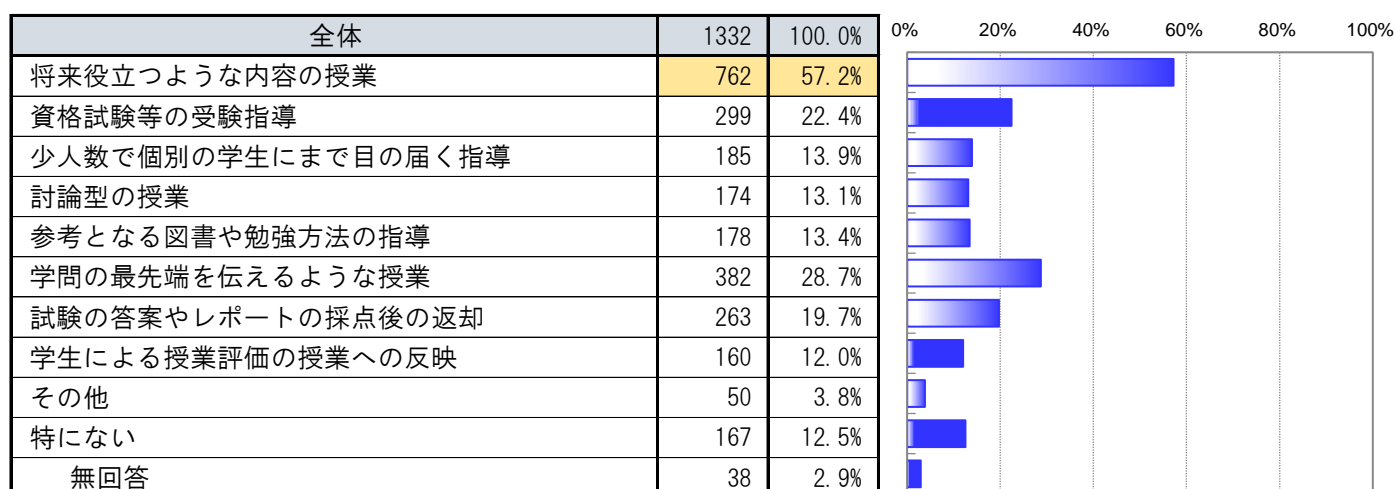
2 大学の教員に対して望むこと [3つまで回答可]

1位は非常に多く、「良質な授業」873件(65.5%)であった。2位以下は、「尊敬できる人格」540件(40.5%)、「熱心な教育指導」378件(28.4%)、「適切な単位認定」353件(26.5%)、「人間的交流」265件(19.9%)が続いていた。「その他」38件(2.9%)の自由記述では、板書の字をきれいに、板書をゆっくり、面白い話など、授業内容の充実に関するものが多かった。



3 大学の授業に対する要望や意見 [3つまで回答可]

1位は非常に多く、「将来役立つような内容の授業」762件(57.2%)であった。2位以下は、「学問の最先端を伝えるような授業」382件(28.7%)、「資格試験等の受験指導」299件(22.4%)、「試験の答案やレポートの採点後の返却」263件(19.7%)が続き、「少人数で個別の学生にまで目の届く指導」、「討論型の授業」、「参考となる図書や勉強方法の指導」、「学生による授業評価の授業への反映」が13%前後に並んでいた。



編集後記

修学支援調査は、東京海洋大学および大学院で学ぶすべての学生の皆さんに、有益で快適な学生生活を送ってもらうために、学生の皆さんからの意見を聞いて、本学の修学環境の改善等を図る目的で実施されています。

本調査は昨年度に計画され、アンケート調査が今年6月に実施されました。アンケートの内容は、多岐にわたり、対象の皆さんには、80項目以上の設問をお願いしました。回答する学生にとっては、設問が多く、大変だったと思います。多くの時間をさいて、このアンケート調査にご協力いただいた学生の皆さんには、この場を借りてお礼を言いたいと思います。

今回の調査はアンケート用紙を作成して行いましたが、印刷・配布・記入・回収・集計に手間がかかりました。今後はインターネットを通じた形式での効率的な実施が望まれます。また、アンケートの内容は、本学の皆さんが、いまどのような生活を送っているのか、どのように大学は改善すべきかなどの視点から作られており、回答して頂いた内容は本学にとって修学環境の改善のための有益な情報となりました。また、設問の他、自由記述で頂いたすべての意見は、関連の部局などに連絡をして、適切に対応するように進める予定でございます。

最後に、調査にご協力いただいた学部学生・大学院及び教職員の皆さんに心よりお礼申し上げます。

平成28年1月

学生支援委員会学生生活実態調査小委員会 主査

田中 栄次

委員会の構成メンバー

平成26年度学生生活実態調査小委員会

(主査) 婁小波・鈴木徹・小山智之・岩淵聡文・塚本達郎・吉崎悟朗

平成27年度学生生活実態調査小委員会

(主査) 田中栄次・神尾道也・嶋倉邦嘉/長阪玲子・岩淵聡文・地下大輔・石田真巳